



これまで各地商工会議所で使用されている各地商工会議所のマークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染みやすいロゴマークになっています。ロゴは各地商工会議所青年部の英語名 (Young Entrepreneurs Group) の頭文字をとったものですが、同時に各地商工会議所青年部の持つコンセプト、若さ・情熱・広い視野をもった経営者 (Youth Energy Generalist) を表現しています。

日本YEG・VOL.47

SHOUSEI

翔生

平成20年3月号

発行 日本商工会議所青年部
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所 中小企業振興部内
TEL 03-3283-7847 <http://yeg.jp/>
編集 広報委員会
委員長 山田 英樹
副委員長 下中 伸浩・高倉和一郎
委員 伊藤 篤司・江原 弘義・奥村 篤士
沖本 孝一・工藤 大輔・笹原 司和
高倉和一郎・寺田 雅彦・富永 吉昌
橋場 崇典・林 隆男・細川 悟
吉田 修・吉田 善幸





日本商工会議所青年部(日本YEG)
平成19年度会長
愛知県 豊田YEG

原田隆司

日頃より全国各地のYEGの皆様には大変お世話になっております。思い起こせば昨年2月の全国会長研修会いしかわ加賀会議での会員総会にて、平成19年度日本YEGスローガンを掲げさせて頂きましてから、早いもので一年が過ぎようとしております。私に出来ること、課せられた役割、また皆様への愛知大会の恩返しは、この中部地区の恵まれた交通機関を最大限に生かし、多くの会員の皆様とふれあい、とことん話をすることだと思ひ、全力で一年間走ってまいりました。その想いが「行動」というキーワードにあります。平成19年度日本YEGスローガンは「We Can Do It.今行動!」全ては愛する地域のために」と掲げさせて頂きました。これは、私たちYEGメンバー26,000名が、スケールメリットを生かし、自信と誇りを持って行動すれば目的は必ず成し遂げられ、そして全ての活動が愛する地域のためになるという強い想いを込めたスローガンです。

そのスローガンのもと、春の会長会議では平成19年度日本YEG会長所信を始め、日本YEG設立25周年という節目を迎える年間事業計画をお伝えし、ご理解と協力をお願いをしてまいりました。

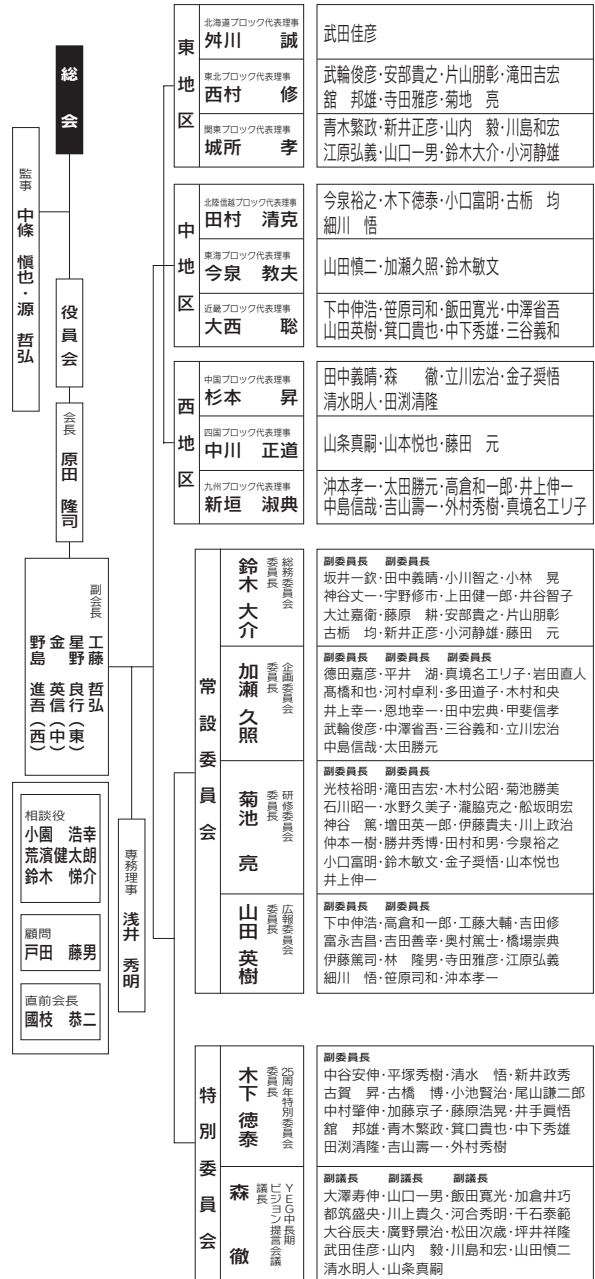
そして25周年記念「YEG東京サミット」では、830名を超える多くの会員の皆様にご参加いただき、盛大に25周年のお祝いが出来ました事、多くの会員の皆様のお力添えがあったことと感謝申し上げます。

ブロック大会では、各地域の特色と素晴らしさを、自信と誇りを持って表現されていたことが昨日のように思い出され、会員の皆様が本当に地域を愛しているということを実感させて頂きました。その集大成として11月の全国大会千葉大会には全国各地から大勢の会員の皆様にお集まり頂き、寒い中にもかかわらず多くのふれあいを実現することができ、改めて全国26,000名の会員の皆様の熱い思いに触れ、多くの感動をいただきました。

全国会長研修会長崎塾にも1,400名を超える皆様にご参加頂き誠にありがとうございました。今回の長崎塾にはメリハリをきちんと付け、今年度の会長様にはお疲れ様の意味合いも持たせ、また次年度の会長予定者様は小グループ化をさせて頂き、次年度の活動にお役立ていただけるように設営させていただきました。お蔭様で多くの皆様に役に立った研修会でしたとお言葉を頂くことができ大変嬉しく思います。会員総会では設立から25年間変わることの無かった規約の目的の変更を、満場一致でご承認頂き、新たな責任を持った日本YEGとしての一步を踏み出すこととなりました。皆様の意識改革が同じベクトルであることを確認できました。

また、この一年間具体的に取り組んできたことも実を結びつつあります。それは事業承継税制の件です。昨年7月の事業承継円滑化提言に、日本YEGの提言が反映されました。ご存じのとおり、YEGの会員は全国の中小企業経営者とその後継者の集まりで構成されています。事業承継時に、これまで10パーセントの非課税だったことが、同族会社の株については80

組織図



パーセントを非課税（5年間納税猶予）にすることで、後継者の育成と地域の雇用の確保を目指すというものになりました。皆様の多くの声が行動となり大きな成果となりつつあることを強く実感いたします。また道路特定財源についても地域格差是正のためにも、暫定税率の維持をし、真に必要な道路14,000キロの高規格幹線道路の整備を早期に進めていただくよう提言書をまとめて参りました。今後もそれぞれの地域の中小企業の活性化のためにもYEGとして声を上げていく必要性を強く感じさせて頂きました。

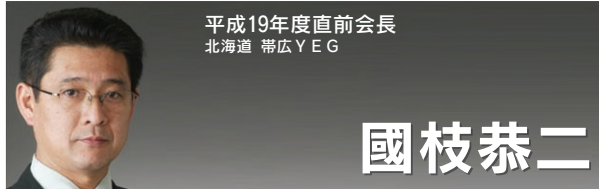
今後も26,000名の会員の皆様が、より積極的にYEG活動に参加され、より多くの意見と行動を起こしてほしいと強く願います。時代の移り変わりの中で求められるものも変化します。過去を変えることはできませんが、未来は変えられます。

われわれYEGは、青年経済人としてあらゆることに柔軟に対応し、行動しなければなりません。その行動の積み重ねが大きなパワーとなり、地域を動かしていく礎となります。そして皆様の愛する地域が、激しく変化していく日本を支えていくこと

にもつながります。

お支えを頂きました全ての皆様に心から感謝を申し上げ一年間の報告といたします。

“「We Can Do It . 今行動！」全ては愛する地域のために”



平成19年度出向者の皆様、お疲れ様でした。当事者の皆様にとってはあつという間に駆け抜けた楽しくも忙しい一年半であったかと思います。単年度制であるがゆえにスタート時はいつも試行錯誤を繰り返しますが、日本YEGの役割とは何か・・・をおぼろげながらもつかみ始めた中盤からは皆様の目にも自信が見て取れ、目標に向かってひたむきに突き進んでこられたの

ではないかと感じております。地域のYEGは現場だからこそ出来ることがあります。日本の連合会である日本YEGは個別の地域では解決できないものにご取り組むべき使命があります。そしてそこに参加し、多くの経験を得た皆様がこれからやるべき事は、日本YEGで学んだことや人と人との連携、ネットワークをベースに今度はそれぞれの地元でその力を発揮することだと思います。その使い方はともかく(笑)、やたらエネルギーの高い皆様ですから決して隠居などすることなく、地域でも思いきり活躍して頂きますよう期待しております。私的には議決権のない直前会長とはなかなか微妙なもので(笑)、たいては皆様のお手伝いも出来ず申し訳ありませんでした。



平成19年度副会長の工藤 哲弘です。企画委員会を担当させていただきました。

前年度の全国大会大分大会のお礼もかねて企画委員会のメンバーと共に各ブロックを春、秋と廻らせていただきました。各地で地元の活性化のために頑張っている熱いメンバーと語り酒を酌み交わしました。何処に言っても話は尽きることがありませんでした。やはり、地域の特徴、規模は違えども、お互いの地域を思う気持ちはみんな同じなんだと確信する事ができました。これこそが、YEGの原点であると…。

今年度は、規約の改正など大事な部分に踏み込んで25年目の節目としての改革でありました。

20年度といたしましても、25年間支えていただいた皆さんの気持ちを受け継ぎ、しっかりと前進していくつもりでございます。この、19年度の貴重な一年の経験を活かして、仕事あつてのYEG！地域あつてのYEG！皆さんあつてのYEG！を確実に推進していきます。

今まで出会ったメンバーに感謝！これから出会うであろうメンバーよろしく！

最後に加瀬委員長率いる企画委員会のメンバーの皆さん！

偉そうに飲み会ばかりで元気出してすいませんでした。メンバーみんなの協力があつて加瀬委員長も頑張ってくれたでしょうし、加瀬委員長あつての企画委員会であつたと思います。すばらしいメンバーと一年間ほんと、(うちのかみさんより長くいた方もいますが・・・)一緒に仕事が出来て幸せでした。



19年度、広報委員会及び25周年特別委員会を担当させていただきました。

広報委員会は、ホームページの作成やメルマガ、翔生、そして石垣と非常に内容の充実した活動をしていただきました。山田委員長をはじめとする委員会の皆様には各地のブロック大会の取材等、本当にお疲れさまでした。

25周年特別委員会は、沢山の事業を抱え、本当に全部できるのか、心配でしたが、木下委員長をはじめとする委員の熱い思いと行動力で、所期の目的を完遂することができました。特に、YEG東京サミットについては、実質3ヶ月という非常に短い準備期間でしたが、実行委員会を立ち上げ他の委員会の皆様のご協力をいただき、式典、講演会、分科会、祝賀会、総括と何年も前から準備をしているかのような、充実した内容で行

うことができました。そしてご来賓や関係者、そしてなにより参加していただいた全国各地のYEGメンバーから高い評価を受けることができました。

CACCI (アジア商工会議所連合会) についても、多くのYEGメンバーとオーストラリアまで出向き、日本YEGのパワーをアジアに示すことができました。25周年記念誌は膨大な資料と原稿を集め、すばらしい記念誌を作ることができました。若手公務員との交流もさらに充実した展開を見ることができました。本当にお疲れ様でした。

会長会議、ブロック大会等で全国各地にお邪魔させていただいた際には、各ブロック代表理事をはじめ各地のYEGメンバーに大変お世話になりました。夜ごと、酒を酌み交わしながら、沢山の議論をしました。お付き合いをいただいた皆様には心より感謝いたします。誠に至らぬ副会長でしたが、それぞれの委員会の情熱と全国のYEGの仲間の思い、そして何より事務局の皆様の献身的なご協力があったお陰とっております。そして私を快く出向させていただいた地元会議所、YEGメンバーに感謝します。一年間ありがとうございました。



平成19年度副会長
志賀県 八日市YEG

金 英信

まず所感を述べる前にこの一年半を振り返りたいと思います。当時原田会長予定者から中地区担当副会長の話があり本当にこの私に日本YEGの副会長が務まるのだろうか？という気持ちで不安でした。平成11年度より私が日本YEG（当時商青連）に出向した時からの仲間である原田会長の為、またお世話になった日本YEGのお役に立てればと思い副会長の職をお受けしました。

副会長としての最初の仕事は浅井専務理事予定者と、東海ブロックの県連会長及び18年日本YEG出向者の会議にオブザーバーとして参加させていただくことでした。その後執行部（副会長、専務理事、委員長、ブロック代表理事、監事）予定者の皆様と顔合わせを兼ねた会議を数回開催し、原田年度のスローガン、所信、基本方針、年間スケジュール、職務分担を協議し、その中で私の担当委員会が研修委員会に決まり菊地委員長とも委員会の事業について話し合いました。

そして大分での全国大会で全国からの出向者との第1回予定者会議が始まり、1月のキャリアックで全国より集まった専門委員を含めた全出向者に一年間の事業確認、各委員会の活動方針、事業内容を発表、2月の加賀での全国会長研修会で原田年度のスローガン、所信基本方針、年間スケジュールを承認して頂き4月より原田年度がスタートしました。

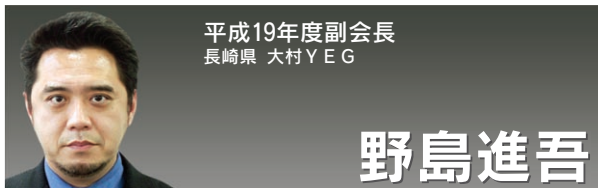
春のブロック別会長会議においては9ブロックを訪問させていただき各ブロックのメンバーの皆様とご縁を頂きました。7

月にはオーストラリアのパスで開催されたCACC I（アジア商工会議所連合会）に日本YEGのメンバーの一員として参加をし、また本年度は日本YEG設立25周年ということで8月にYEG東京サミットを開催し全国のYEGの仲間とお祝いをする事が出来ました。秋のブロック大会では7つのブロック大会に参加をさせていただき交流をさせていただきました。そして11月の千葉での全国大会でそのご縁、交流を深めてきた日本のYEGメンバーと再会することが出来ました。

最後に長崎での全国会長研修会長崎塾に於いて共にこの一年間過ごしてきた仲間（日本YEG出向者）と勉強した事を全国の会長及び熱意ある会員、事務局の皆様にご発表することが出来ました。

この一年間は本当にタフな一年（年間100日以上日本YEG活動）でした。原田会長をはじめ工藤、星野、野島副会長、浅井専務、中條、源監事と夜遅くまで議論した正副会長会議、各委員長、ブロック代表理事を交えた内容の濃い執行部会議、緊張感の中での熱が入った役員会。そして菊地委員長をはじめ担当の研修委員会と行った数多くの委員会事業と本当にやりがいがありました。また各地ブロックにお邪魔して各地のメンバーと夜遅くまで交流をさせていただきました。この中で数多くのメンバーと触れ合い、多くの友人が出来ました。どれをとっても忘れる事が出来ない貴重な経験と多くの事を学ばせて頂きました。

最後にこの様な素晴らしい体験が出来たのも日本YEGの出向者の皆さん、裏方として支えて下さった塩野事務局局長を始め、佐々木君、杉浦君、日商事務局の皆さん、全国各地のYEGメンバー、そして私を日本YEGに送り出してくれ全面的にバックアップしてくれた地元の単位会、県連に感謝をいたします。本当に一年間有り難うございました。



平成19年度副会長
長崎県 大村YEG

野島進吾

18年度より、長崎県連より日本YEGへ出向させて頂き、広報委員会として活動し、19年度、副会長として全国各地の現状を感じた事により「日本YEG」と私達「各地域のYEG」の持つ責任の重大さに深く気づいた。

それに伴い、日本YEGでの提言活動や、中長期ビジョン提言会議で、日本YEGの歴史や立ち位置を掘り下げて勉強した中で、国の政策は地方の国民の生活にまでも大きく影響し、経済の波は、絶対に無視できない事も、深く痛感した。

しかし今言える事は、世の中の経済状況がどうであろうとも、私達青年経済人は……「自分の会社は自分で守る」「自分達のまちは自分達で守る」……の決意を新たに、自社の経営改革・我がまちの発展にこれまで以上に取り組むしかない。

しかし、そのような状況であるのは解るが、実際に行動を起す事が難しい。「やろうと思ったが具体的にどうすればよいか分からない」「変わるにより失うものがあるようだ」「自分にはスキルがない」……というような言い訳、が頭をよぎるの

が現状ではないだろうか。

YEGに所属して約20年をむかえる私自身、地域に根付いた青年経済人として、YEG活動と並行し、今日まで生業を起してこれた事は、YEGで学んだ多くのことや、そしてその環境下での先輩方や仲間の支えなしではありえなかったことと同時に、今回の出向経験を加え、今日に至るまでの様々な出会いや経験は、これからの人生においても間違いなく多大な影響を与えてくれる事と確信している。これからは自分が得たものを地域に活かす為に、臆する事なく具体的に行動し精進することを誓いたい。

最後に、全国会長研修会・長崎塾での前泊者各諸会議及び交流会を、わがまち大村で開催し、約250名の参加。そして約1,500名の全国の仲間が深く語りあえた研修を長崎で開催させて頂いた事に対し、この場を借り心から御礼を申し上げます。

主管地の長崎YEGや長崎県連一丸となって運営できた長崎塾は、これからの地元のYEG活動の歴史上でも語り継がれる事業となり、各々の大きな誇りと自信になったと思う。

私自身、言葉では表せないほどの感謝を抱き、感じただけ、言うだけ、ではなく実際に行動する癖を付け、これからも夢を語るだけではなく、夢に挑む責任をもった青年経済人でありつづける事を約束し、あわせて感謝の言葉を込めて、今年度の締めくくりとしたい。『19年度の皆様に心から感謝。』



日本YEGが25周年を迎え「大人の会」へ脱皮する節目に出向の機会を頂きましたことは、「私の人生にとって大切な宝物」となりました。

多くの方にご指導・気づきをいただき、YEGのみならず、人生の師匠や先輩・友人をたくさん作ることができました。平成19年度日本YEGへ関わっていただいた方、興味を持って

いただいた全ての方へ、御礼とともに深く感謝いたします。

私自身は、日本YEG専務理事としての能力の無さを痛感した一年になりましたが、平成19年度出向メンバーの熱意と能力の高さで日本YEGがすばらしい「大人の会」へのスタートを切る年になったと確信しております。

私にとっての平成19年度は、平成12年度に原田隆司氏に出会ったことに始まっています。人と人との出会いは、奇跡的なものであることを実感しております。皆様も、是非、ご出向いただき「人生の宝物」を見つけていただきたいと思います。

全国のYEGメンバーに最後に重ね重ねになりますが、深く感謝の意を表しまして私の出向の所感とさせていただきます。



商工会議所青年部入会16年目の本年、いよいよYEG卒会の佳節を迎える事になる。

我々青年部は、「商工会議所活動の一翼を担い豊かで住みよい郷土づくりに貢献する。」とその方針を綱領で誓い、その為に研鑽に努め、教養を高め、勇気と情熱を持って国家の礎になる事を指針で方向付けてきた。

近年、前文の商工会議所活動とは何か？という大きな命題を解明する為に、商工会議所法や商工会議所の基準定款を読み、その活動の根幹を成すものは「建議・具申」であり「意見・陳情」であると気付かされた。

これらを踏まえ日本YEG設立25周年を機に、全国商工会議所青年部連合会の規約の目的・事業の変更に英断を下した。

私は、この規約の変更に携わられた諸兄のご努力に最大限の敬意を表したいと思う。

しかし、我々の地域で活動する各々の単位会の規約にもうたわれる、当初の「目的」「事業」の根幹を成してきた「研修・研鑽」は、既に完成されたのであろうか。私がここで述べる「研修・研鑽」は商工業者としてというより一人の人間・常識人として

の基本的マナー・常識の範疇の研修である。

過去にも全国大会等の日本YEG主催の事業に参加して、総会・講演会の参加者の少なさに恥ずかしい思いをした事が幾度となくあった。講演中に平気で遅れてくる。最前列で寝ている。会議の途中でバタバタ出て行く。または最初から参加すらない。各種の会議を何ヶ月もかけて準備くださった方々への敬意と感謝も感じないこれらの態度は、日本経済を、国家を牽引する商工会議所の若きリーダーの所業であると俄かには信じられない。ましてや、地域の単位会から少なからずも助成・出向経費を頂いての会議であるとしたならば、おおいに反省しなければならないと思う。つまり、いくら目的を変更しても運用する我々一人一人の意識が変わらなければ組織を変える事は出来ないと思うからだ。本年度出向頂いた全ての皆さんが地元地域にお帰りになり、自らの態度で範を示される事こそが日本YEGを真に変革する事になると信じる。「組織を変革するものは、名文の条文でもなければ、卓越したリーダーの名演説でもない、真に変えなければ成らないと願う無名の戦士の深い一念のみである。」

皆様の益々のご活躍をお祈りすると共に、長年にわたり私の出向を支えてくださった多くの友人と、地元高松の全てのメンバーに最大の敬意を称し、なによりも影で支えてくれた妻と子供たちに感謝の言葉を送り、青年部活動の全てを終わりたいと思います。本当に有難うございました。

合掌



日本YEGの監事として、平成19年度を振り返ってみると、非常に高い意識のメンバーが集まった役員会であり、事業運営であったように思います。私自身も、役員会で講評している立場でありながら、皆さんに引っ張られ、一年を有意義に送らせていただきました。

大きな所信を抱く原田会長と全国から集まる猛者との隔たりは、やはり日本YEGの出向年数で、私の役割はそういった面を埋めていくことだと感じていました。スタートがいくら戸惑っても、あきらめずにやり遂げるメンバーは、例年に比べても見劣りしないくらいに、集まりも多く開き、課題もたくさん

仕上げてきていただいたように思います。

監事としての苦言は鬼の中條さんにお任せして、私の私としては皆さんのモチベーションが、より高まるようにと考えていたのですが、なかなか上手くはいきませんでした。

書類的に苦言を指した際も、多忙の中での作業にも関わらず対処して頂き、頭の下がる思いでした。執行部の皆さんにも、本年度は、正副会長会議・執行部会議と呼んでいただきながら、すべてにおいて参加出来ず、非常に申し訳なかったです。最後に、本年度富山YEGの単位会会長という事もあって、スケジュールのブッキングが多く、満足な監事ではなかったように思いますが、やはり今年度のメンバーに出会えた事は、原田会長を始め、いろいろと支えていただいた浅井専務、そして誰よりも長い時間を共有した、鬼の中條監事に感謝申し上げ、一年間の報告といたします。



総務委員会

委員長

鈴木大介(小田原箱根 YEG)

委員理事

安部貴之(塩釜 YEG) 片山朋彰(米沢 YEG) 古橋 均(滑川 YEG)

新井正彦(藤岡 YEG) 小河静雄(藤沢 YEG) 田中義晴(米子 YEG)

藤田 元(西条 YEG)

専門委員

小川智之(千葉 YEG) 坂井一欽(新津 YEG) 小林 晃(須坂 YEG)

神谷丈一(豊田 YEG) 宇野修市(豊田 YEG) 上田健一郎(彦根 YEG)

井谷智子(吹田 YEG) 大辻嘉衛(加古川 YEG) 藤原 耕(大田 YEG)



委員長
鈴木 大介

この一年間、非常に多くの皆様にご支援、ご協力を頂きました。平成 19 年度日本 YEG に関係する全ての皆様へ深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

振り返ればあつという間の一年でした。私が平成 19 年度日本 YEG に関して本格的に動き出したのは一昨年の 9 月下旬からでしたが、特に 4 月の年度スタート後はすごい速さで時間が過ぎて行ったように感じます。そのような感覚の中でどこまで総務委員長としての重責を全う出来たのかについては自信はありませんが、素晴らしい委員会メンバーと共にとても充実した時間を過ごすことが出来たと思っております。

今年度は第 51 回通常会員総会にて規約に定められている「目的」と「事業」の改正が行われました。日本 YEG が設立 25 周年を迎える今年度に、規約改正をもって新たな方向性を示すことが出来たのは、日本 YEG の新しい時代に一步を踏み出す契機となると考えています。

日本 YEG は全国をエリアとする 1 つの単位会ではなく YEG の「連合会」です。会員である約 400 の単位会がそれぞれ持っている多様性を許容し、その多様性に基づいた理念と方向性を持ち、且つ商工会議所活動の一翼を担わなければなりません。日本 YEG が「YEG はこうあるべき」と主張するのではなく、「多様性の許容」こそが連合会としての基礎だと私は思います。自組織の現在の姿、歴史をよく考察し、「一貫性」と「継続性」に重きを置きながら、この規約改正をスタート地点として「全国商工会議所青年部連合会」の今後のあり方を考えてゆくことで、この改正は本当に有意義なものとなるでしょう。

今後、平成 19 年度日本 YEG の活動が、YEG に関わる全ての皆様にとって新たなスタート地点となることを願って、総務委員長の席を立ちたいと思います。一年間、ありがとうございました。

副委員長 坂井 一欽

総務委員会の個性豊かなメンバーと出会い、一年間楽しく有意義な活動をさせていただくことができました。ありがとうございました。委員会では、YEG 大賞を担当させ

ていただきましたが年間を通しての事業ということで気の抜けない一年でした。委員会メンバーをはじめ、多くの方々のご協力をいただき無事に終えることができ感謝申し上げます。ありがとうございました。

理事 片山 朋彰

私は、今まで、出向経験のない、単位会でも会務を 3 回経験させていただいただけの、どこにでもいるような、ごく一般的な米沢 YEG 小メンバーとして、飲酒及び活動しておりましたが、某先輩の会長研修会誘致策略トラップに、見事に獲物としてひっ掛かり日本 YEG 出向となりました。

日本 YEG 総務委員会に配属させていただき、鈴木大介委員長の下、各会議の運営や東京サミット・規約の見直し・YEG グッズ・YEG 大賞・会長研修会第 4 塾・その他の活動を各地域でまた、たくさんの方々と経験させていただきました。その活動の中、各地域の単位会の温度差と距離感が「南極と北極」並みにあることを実感しました。このまま、日本中の YEG の仲間の活動や仲間を互いに知らないままにるのは、YEG に入会していても実にもったいないと感じます。青年部は、もっとたくさんの冒険や出会いを求めなければいけません。そして、「人のつながりが商売のつながり」に通じれば最高の団体になるように思えます。何も分からないままに、出向させていただき、YEG の現状と内容を把握するまで 8 ヶ月かかり、始まると同時に終わりが近くなったのが実状で、まったくもって「もったいない」と感じると共に「19 年度日本 YEG 総務委員会の仲間は生涯の仲間」だと、うれしく感じる今日この頃です。

委員 小林 晃

平成 17 年度に初めて長野県出向理事として企画委員会に所属し、18 年、19 年と総務委員会専門委員として出向させていただきました。地元 YEG と全国の単位会のみなさんの温度差やスケールの違いなど、最初は戸惑いすら感じておりましたが、徐々に地元 YEG が全国の刺激を受け大きく変わることができたと思っています。

17 年度に会津若松 YEG の「ジュニアエコノミーカレッ

ジ」を知り、18年にはこの日本YEGで菊地研修委員長と知り合い、須坂版「ジュニエコ」の事業を開始することができました。本年度は須坂にとって事業開始2年目にしてYEG大賞を受賞するというので、この「YEGネットワーク」の素晴らしさを実感しています。

日本YEGへの出向は本当に時間とお金のかかるものです。が、しかし、それは必ず、自分自身、自企業、単位会、地域のためになるものと確信しています。今後、日本YEGへ出向するメンバーのためにも、このことを多くのメンバーに訴えて行きたいと思っています。

一年間本当にありがとうございました。

委員 藤原 耕

青年部に入会した時は、日本YEG（当時、商青連）は雲の上の存在で関わることはないだろうと思っていましたが、ひょんな事から関わりを持つようになりました。

日本YEGの事業は各地域の単位YEGの活動をサポートするために活動してきましたが、まだまだ敷居が高いと感じている人が多くみられます。

今後は、地域に帰り単位YEGの立場から日本YEGを盛り立てていきたいと思っています。

一年間ありがとうございました。

委員 井谷 智子

理事ではございませんでしたので、いままで意識をしておりませんでした規約や総会について、総務委員会で学ぶことができました。各委員会が何をされているか知ることができ、皆様に可愛がって頂き、有意義な一年でした。

今思うと、総務の皆様には、懇親会後の東京の街や臨時委員会など楽しい思い出しかございません。広報の皆様には春・秋の会長会議やメールマガジン等でお力添え頂きありがとうございました。研修の皆様にはBPCの研修会にお邪魔させて頂き、参加者の頑張っている姿を見て感動いたしました。企画の皆様には各ブロックで一人参加の折には同じメンバーのように扱って頂き、孤独を感じずに過ごすことができました。

中長期の皆様には各所でお仲間に入れて頂き、熱い思いを聞かせて頂きました。25周年の皆様にはCACCI（アジア商工会議所連合会）に息子ともども、参加させて頂き、親子の絆を深めることができました。皆様に感謝です。日本YEGをよくしていこうという皆様の思いを、次年度へ引き継ぎ頑張りたいと思います。



企画委員会

委員長

加瀬久照(津 YEG)

委員理事

武輪俊彦(八戸 YEG) 中澤省吾(奈良 YEG) 三谷義和(新宮 YEG)
立川宏治(東広島 YEG) 中島信哉(小城 YEG) 太田勝元(長崎 YEG)
真境名エリ子(那覇 YEG)

専門委員

岩田直人(千葉 YEG) 高橋和也(平塚 YEG) 徳田嘉彦(浜松 YEG)
多田道子(関 YEG) 木村和央(草津 YEG) 平井 湖(大津 YEG)
井上幸一(松山 YEG) 恩地幸一(長崎 YEG) 田中宏典(荒尾 YEG)
甲斐信孝(大分 YEG)



委員長
加瀬 久照

皆様大変お世話になりました、企画委員会委員長加瀬でございます。

この一年を振り返って見ますとアツと言う間の一年で且つ日本YEG活動しか思い浮かびません。

意を決して委員長をお受けしたものの何が何やらサッパリ分からず会議を重ねるごとに職務と責任の重大さを突き付けられ本当にお受けして良かったのか日本YEGにご迷惑を掛けるのではと後悔押し潰されそうになりました。しかしお受けしたからには持てる力だけは出し切ろう、そう決意したのが昨日のようです。

基本方針に「おもてなしの心」を掲げ、精一杯日本YEG活動をさせて頂き日本YEGの創造に向かって努力したいという気持ちを込めたただ一心不乱に突き進んできた

だけです、果たしてそれらが実を結んだのかどうかは私には分かりません。

ただ、この様な表現が適切なのか分かりませんが確実に私自身の為になり、私の単会の資質向上に繋がりました。そこで私は基より今後私の単会を担う若き Entrepreneurs の手に委ねて行き日本YEG並びに単会の創造に向かって実を結ぶよう活動出来ればと考えます。

私を委員長に選んで下さいました原田会長、執行部・役員・専門委員並びに事務局の皆様心より感謝申し上げます。

最後になりますが、いつも支えて頂きました工藤副会長・企画委員会の皆様のご支援ご協力により無事終えることが出来たと思っております、本当に心より感謝申し上げます、ありがとうございます御座いました。また、これからも宜しくお願い致します。

副委員長 平井 湖

昨年に引き続き2回目となりました日本YEG出向。あらゆる面において手探りであった昨年に比べ、一步一步感触を確かめながら、そして副委員長という大役も経験させていただけたことで更に実りのある年度になったと実感しております。一番の経験・思い出となったのは、日本YEG設立25周年記念事業『YEG東京サミット』。当企画委員会では記念パーティー部門を担当し、またこの部門の取りまとめも務めさせていただきました。私事ではありますが、平成20年度全国大会の実行委員長も兼ねているため多忙な時期ではありましたが、委員会メンバーと力を合わせ盛大に開催できたこと大変感激しております。そしてこの一年間企画委員会の素晴らしいメンバーと苦楽共に出来たことは何にも代え難い私の財産となりました。心から感謝致します。

一年間本当にありがとうございました！

理事 武輪 俊彦

東北ブロック大会を主管する立場として、日本YEGの情報を得ようと企画委員会に出向致しました。当初、役員会に7割は出席できることが条件としか聞いていなかったものですから、まず11月の全国大会から毎月の予定者会議があることにびっくりしました。その次に役員会のほかに、地元を含めて春の会長会議、ブロック大会にそれぞれ最低3回出席しなければいけないと言われてびっくりしました。更に役員会は100%に近い出席率であること、企画委員会は9ブロック全出席を目指している人が多いことを知って、またまたびっくりしました。びっくりすることの連続でしたが何とか足手まといになりながらもゴール間近となりました。大会準備に追われ、日本YEGのプログラムを十分に活用できませんでした。県連の皆様にも有効な情報提供の仕方がもっとあったと思います。20年度ももう一度出向させていただく機会を得ました。次年度は(もとい、次年度も)頑張ります。

理事 中島 信哉

YEG最後の年に日本YEGに出向し、今思うことは、出向して良かったな、企画委員会で良かったな～です。出向に関しては単位YEGで、もめにもめ最後は口説き落としに遭いました。(女性だったら良いが)もっと若いメンバーに出向して欲しかったのが私の希望でしたが叶いませんでした。一年間出向して失うものも“妻”有りましたが、得るもの“友人”が多かったのは事実です。その中でも一番良かったことは事業承継税制の見直しが決定したことです。YEGの活動が国をも動かす。YEGの凄さを実感しました。又県連メンバーにも日本YEGの活動が示せたのではないと思う。又自分自身も将来の経営に光が指したようです。又各種大会に関われたこと、特に最後の長崎塾は私自身YEGの集大成の大会でも有り良い思い出と成りました。

最後に日本YEG原田会長以下役員の皆様・加瀬委員長以下企画委員会の皆様に深く感謝申し上げますと共に出向に出して貰った亀本会長以下佐賀県連の皆様・小城YEGの皆様にも深く感謝申し上げます。

理事 太田 勝元

本年度、長崎県連・長崎YEGより企画委員会へ出向させて頂きました太田勝元です。

本年度は、我々にとって会長研修会を主管するという非常に重要な年でありましたが、皆様方のご支援・ご協力のお陰を持ちまして無事終える事が出来そうです。あらためまして、心より感謝申し上げます。全国のYEGの皆様、本当にありがとうございました。

会長研修会“長崎塾”に関しましては、行き届かなかった点或いはご迷惑をお掛けした点等、多々有ったかとは思いますが、参加頂きました多くの方々から「ありがとう！」とのお言葉を頂く事が出来ました。私自身、青年部に入会して9年目を向かえますが、本年度ほど青年部に入会して良かったと思える年は有りません。

また、出向して出会った多くの仲間、特に企画委員会(通称：チームかせっち)メンバーは地域リーダーの代表として出向されている素晴らしい方々ばかりで、私の一生の財産になる事と思います。

しかし、一番大事な事はこの一年間の経験を如何に自分の所属するYEG・自分の故郷・自分の会社に反映させる事だと思っておりますので、これからも“**We Can Do It!**”の精神で何事にも全力で取り組んで参りたいと思っております。皆様、何卒宜しくお願い致します！

委員 木村 和央

企画委員会に出向して多くの方との出会いがありました。加瀬委員長をはじめ企画委員会のメンバーに出会って一年間各地に行けた事、前半の会長研修会議には参加出来ませんでした。ブロック大会には参加して、その土地柄のブロック大会を運営側から参加出来たことには、感謝します。

加瀬委員長をはじめ企画委員会のメンバーは本当に最高のメンバーばかりだと思います。チーム加瀬の一員になれた事がいい思い出になりました。

皆さんありがとうございました。

委員 河村 卓利

YEGに入会して3年目。機会をいただき初めて出向を経験しました。

企画委員会は全国大会・会長研修会・各ブロック大会を主管される方々が多く、その熱意に圧倒されっぱなしでした。特に各種大会に参加させて頂き、それぞれの地域でそれぞれの「おもてなしの心」を体験させて頂きました。各種大会を開催されるまでには、激励・協調・友情・笑い・激論・汗・涙・あせり等、様々な感情が入り乱れていた事

だと思います。そんな中でひとつの目標に向かって一步一步前進する事が、人生における研修であり研鑽だと思います。

全国から集まった同じ志を持った仲間は、一生の友人になる事でしょう。

一年間、お世話になりました。そしてありがとうございました。

委員 田中 宏典

皆様こんにちは。平成 19 年度日本 Y E G 企画委員会に出向させていただきました熊本県連荒尾 Y E G の田中宏典と申します。簡単ですが、一年を振り返った気持ちを伝えます。

初めての出向が決まって、今までにない期待と不安の中、

手に汗をかきながらキャリアックに向かいました。片田舎から出たことのない私にとって、皆様の挨拶のすばらしさや、堂々とした姿をみて愕然としました。懇親会後部屋にもどり、とんでもない団体に所属してしまったと一人布団の中で涙したことを今でも思い出します。しかし昼夜問わず皆様とお供させていただいている内に、いつの間にかたくさんの友人ができて楽しくすごしていました。人生の中ですばらしい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

かみかみで頼りない私、第 28 回九州ブロック大会荒尾大会の実行委員長を務めさせていただいてますが、「誰一人、うまれつきすべてを上手くこなす人間はいない」と言う先輩の言葉、出向での経験や努力を忘れずに、これからも楽しく元気いっぱいやっていきます。



研修委員会

委員長

菊地 亮(会津若松 YEG)

委員理事

滝田吉宏(郡山 YEG) 今泉裕之(亀田 YEG) 小口富明(下諏訪 YEG)
鈴木敏文(高山 YEG) 金子奨悟(浜田 YEG) 山本悦也(宿毛 YEG)
井上伸一(指宿 YEG)

専門委員

木村公昭(弘前 YEG) 石川昭一(ひたちなか YEG) 菊池勝美(水戸 YEG)
水野久美子(浜松 YEG) 瀧脇克之(富山 YEG) 船坂明宏(高山 YEG)
増田英一郎(江南 YEG) 神谷 篤(岡崎 YEG) 伊藤貴夫(津 YEG)
光枝裕明(大津 YEG) 川上政治(八日市 YEG) 仲本一樹(北大阪 YEG)
勝井秀博(奈良 YEG) 田村和男(阿波池田 YEG)



委員長
菊地 亮

当委員会は事業を大きく 4 つのプロジェクトに編成した。そしてプロジェクトを通し、最終的に全国 400 Y E G 2 万 6000 人の資質向上及び意識喚起を図ることを基本方針とした。手法として各ブロック春の会長会議にて日本 Y E G が取り組むべき諸問題の調査及び意見集約を試みた。

地域再生・活性化プロジェクトではその結果・考察を踏まえ産業界の観点に立った教育再生をテーマとし、東京サミット、秋の会長会議におけるディスカッションを通し商工会議所・Y E G の教育再生に関する方向性を探求した。最終報告を長崎会長研修会教育再生塾で披露し、意見交換を行い参加頂いた各地の次年度会長に想いを託した。

商工会議所を知らう運動プロジェクトでは委員会内研修にて日商・商工会議所・日本 Y E G ・単位 Y E G の役割を再確認し、「Y E G マニュアル」を作成・配布した。マニュアル作成に際し平成 17 年度未来創造委員会、平成 18 年度地域創造・支援特別委員会活動資料を参考にさせていただいた。両委員会関係諸氏に心より感謝したい。また地域創造支援特別委員会が作成した提言書を基に意見・建議活動の必要性を再認識し、長期間継続して政策提言活動をしている Y E G より講師を招聘し委員会内研修を企画した。

この研修内容は長崎会長研修会政策提言塾の礎となった。ビジネスプランコンテストプロジェクトでは初の試みとして翔生塾を当コンテストの基調講演に位置付けし、全国大会千葉大会にて開催した。講師の島田晴雄先生(千葉商科大学長)の時代に則し機微に満ちた内容は参加者にとって有意義であったと確信する次第である。また山内大会会長座長による原田会長と講師の対談には以下の 2 つの間接的な目的があった。

- ①原田会長を通した講師に対する Y E G の周知
- ②次々年度日本 Y E G 会長の演出

翔生塾は盛況の内に終了したことで間接的な目的も達成できたと思われる。ただ 19 年度も含めて近年翔生塾本来のコンセプトから乖離しているように思われる。次年度以降翔生塾の明確な目的・事業体系を成文化すべきであろう。

以上研修委員会の一年の軌跡を顧みた。数・量・質全てにわたり極限に挑んだといえる。事業の完遂は委員会メンバー各々の高い意識とポテンシャルの賜である。詳細な議事録は過去に遡った委員会の再現を可能にし、緻密なスケジュール管理は毎月際限なく膨張する事業の実行を可能にした。研修委員会執行部及びメンバーに深く感謝する。そして永遠に色褪せることなきこの一年を共有した研修委員会の戦友諸兄を自分の誇りとした。

理事 今泉 裕之

平成 19 年度日本 Y E G に新潟県連 亀田 Y E G より出向理事として出向いたしました今泉裕之です。この 1 年を振り返りますと、特に新潟県中越沖地震発生を受けまして柏崎商工会議所青年部に対する義捐金の募集の際には日本 Y E G の皆様にご理解とご協力を頂きましたことが思い出されます。本当に有難うございました。そして新発田商工会議所青年部主催の城下町しばた全国雑煮合戦に対して

日本 Y E G のご後援を頂きましたことに心より感謝申し上げます。この度の出向は私にとって商工会議所と青年部について理解する機会でしたし、多くの素晴らしい仲間の皆様と知り合うことができました。私は日本 Y E G に出向して良かったと思います。この経験を単位 Y E G の活動に生かしたいと思います。今後とも日本 Y E G の活動が各単位 Y E G にとって灯をともしることができますことを願っています。一年間、本当に皆様ありがとうございました。



広報委員会

委員長

山田英樹(大津 YEG)

委員理事

寺田雅彦(能代 YEG) 細川 悟(白山 YEG) 江原弘義(足利 YEG)
下中伸浩(小浜 YEG) 笹原司和(長浜 YEG) 沖本孝一(豊前川崎 YEG)
高倉和一郎(日田 YEG)

専門委員

工藤大輔(帯広 YEG) 吉田 修(館林 YEG) 富永吉昌(上尾 YEG)
吉田善幸(千葉 YEG) 奥村篤士(大津 YEG) 橋場崇典(八日市 YEG)
伊藤篤司(八幡浜 YEG) 林 隆男(宮若 YEG)



委員長
山田 英樹

当委員会は地味な割に仕事量の多い委員会でした。特にメルマガと石垣の発行が毎月あり、原稿集めに苦労しました。しかし、優秀な副委員長 2 名と委員長セクがいたおかげで私自身はそう大変ではなかったと思います。又、委員会メンバーも嫌な顔せずに役割を果たして頂きましたことに感謝申し上げます。

地味な内容の委員会でしたので、委員会活動では明るく、楽しく活動することを心掛けて参りました。昼間の委員会では誰一人発言しないのに、空が暗くなるにつれ皆さんの顔が明るくなるのが忘れられません。本領を発揮する委員会メンバーとそれに負けずに暴走する委員長。酔っ払ってオシボリを食べる人がいたり、ラーメンの器に顔を突込んで溺れている人がいたり、個性あふれる人ばかりでした。

平成 19 年度日本 Y E G 広報委員会の皆様、楽しい思い出をありがとう！

副委員長 下中 伸浩

今年度の日本 Y E G への出向は、私個人にとっても、単位会にとっても初めての経験でした。当初は戸惑う事もありましたが、仲間もできて少しずつ慣れていくにつれ、楽しさや大変さもわかってきました。

予定者の段階も含め一年余りという短い期間ではありましたが、本年度は特に日本商工会議所青年部設立 25 周年という節目の年をむかえ、記念事業として「Y E G 東京サミット」が行われ、「全国大会千葉大会」、「全国会長研修会長崎塾」と、いずれも中身の濃い斬新な、記憶に残る事業に関われた事は、とても幸運でした。

広報委員会に配属され、カメラのファインダーから、メンバーやゲストのいきいきとした表情や、スタッフの裏方での真剣な表情、訪れた人の満足そうな表情を目の当たりにすることができ、どんどん引き込まれていきました。時には「この瞬間を逃すまい」と、より良いアングルを求めて走り回り、息を切らしながらシャッターを切った事もありました。

一方、出向理事という任務については、日本 Y E G と県下 Y E G メンバーとのパイプ役として、うまく情報を伝達できたかどうかはわかりませんが、私なりに日本 Y E G から発信される温度(熱意)だけは、なるべく冷まず事無く伝えるように心がけました。

最後になりましたが、私の人生にとってかけがえのない、貴重な体験ができた機会を与えてくださいました全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

副委員長 高倉和一郎

なるべくして…と云うよりその職責の重さを知らぬまま(知らないから受諾出来た)、決まった出向理事。役員予定者会議の最初の数回は萎縮を通り越して内心「これは、えらいなトコに来ちゃったな・・・(刺客のような理事はいるし、監事は無茶苦茶怖そうやし・・・)」と、かなりウツになりかけていました。

そんな中、温かく迎えて下さったのが委員長であり委員会メンバーでした。お陰でこの 3 月には「もう出向もお終わってしまうのか…」と、寂しい心境です。また機会あれば専門委員として出向できればと思うようになった次第です。

そんな私ですが、出向理事として広報副委員長としての

職務は何かと周囲にご迷惑をおかけしながらの一年間でしたが、私にとってはこの一年間の全てが新鮮であり、ここでは語り尽くせない程多くの“気づき”を得ました。それらを決して無駄にすることなく、地域に、県連に、単位YEGに、自企業に、自分自身に生かしてまいりたいと思います。このような機会を与えて下さった全ての日本YEGメンバーと関係者の皆様、そして快く送り出してくれた周囲の方々に感謝いたします。

理事 寺田 雅彦

広報委員として一年間活動させて頂きありがとうございました。皆に助けられながら何とかやりました。委員長のお人柄から皆が和気あいあいとした楽しい雰囲気の中で活動出来たのも幸運でした。これで終わりではなくまた全国大会などでお会いする事も有りますし、また再会できる日を心より楽しみにしております。

理事 江原 弘義

平成19年度広報委員会の皆様、そして山田委員長様お疲れ様でした。広報委員会は、委員長を始め愉快的な仲間が集まりで、一年間楽しく委員会の活動をする事ができました。ありがとうございます。m(_ _)m

私とは言う、やっているようで何もやっておらず、皆様には大変ご迷惑をお掛けして、お世話になりました。取材のカメラは、やっぱり一眼レフが見栄えがいいです。持っているだけで仕事やっていると見えるからね(笑)

理事 工藤 大輔

私自身は初めての出向、尚かつ出遅れての参加となったため、要領を得ないまま最初に参加した委員会時のことでした。

山田委員長が「工藤さん、よく来てくれました。とにかく北海道ブロックをやってくれれば結構ですから・・・」

と声をかけてくださったのです。(一瞬、随分期待されていないなあと思いつつ“冗談です!")この一言は、何もかもはじめての私をリラックスさせてくれる優しい言葉でした。

実際の委員会活動においては、委員長のもと下中・高倉両副委員長の見事な段取り(まさに段取り八分!)で、私自身お役に立てたのか活動を終えた今でも心配になるくらいです。

また、広報委員会は全体の動きを見ることが出来る立場でしたので、各委員会を始めみなさんの時間を惜しまない積極的な活動を目の当たりにし、改めて出向者のポテンシャルの高さを実感しました。最後に本当に楽しく个性的(!)な委員会メンバーのみなさん、一年間本当にありがとうございました。

理事 吉田 修

日本YEGへ初めての出向を希望して、専門委員として最初の顔合わせの「地獄のカリアック」から一年以上が経ちました。まわり全員が初めてお会いする方ばかり、久しぶりの緊張を感じながらカリアック入りしました。翌日の解散時には委員会メンバーなど知り合いが出来、一年間、苦楽?を共にした仲間となっていました。

春の会長会議で東北、酒田市に取材でお伺いした時、取材の使い方や右往左往していた自分、石垣等の担当記事の締切り迫る恐怖、掲載された記事を見たときの自己満足、東京サミットで無茶苦茶な要望、でも委員会のチームワークで乗り切った達成感!、ブロック大会、全国大会、全国会長研修会……、広報取材という立場での客観的な立場での参加も「楽しかった!」一年でありました。そしてなんと言っても「仲間」が出来たことが一番です。来年も広報委員会へ出向(居残り?)します。取材でお伺いした時は皆さんご協力心よりお願い申し上げます。お世話になった方達皆様へ「心よりありがとうございました」。



25周年特別委員会

委員長

木下 徳泰(七尾 YEG)

委員理事

館 邦雄(北上 YEG) 青木繁政(下館 YEG) 箕口貴也(京都 YEG)
中下秀雄(高砂 YEG) 田淵清隆(下関 YEG) 吉山壽一(熊本 YEG)
外村秀樹(小林 YEG)

専門委員

清水 悟(ひたちなか YEG) 平塚秀樹(下館 YEG) 新井政秀(さいたま YEG)
古賀 昇(さいたま YEG) 古橋 博(野田 YEG) 小池賢治(新発田 YEG)
尾山謙二郎(富山 YEG) 中村肇伸(加賀 YEG) 加藤京子(稲沢 YEG)
藤原浩晃(北大阪 YEG) 中谷安伸(明石 YEG) 井手真悟(松浦 YEG)



委員長
木下 徳泰

今年度25周年特別委員会の委員長を務めさせていただきました、石川県連七尾YEGから出向しています、木下徳泰です。

当委員会では、4月から地方から中央へ、中央から地方へ風を吹かせんがために、若手国家公務員との、議論のできる会議「故郷の新しい風会議」を毎月1回のペースで行ってきました。

7月には、アジア商工会議所連合会(CACCI)の若

手起業家委員会（YEG-AP）が、オーストラリア・パースで開催され、参加して参りました。そして、8月24日・25日には当委員会が実行委員会を務めさせていただき、日本商工会議所青年部の設立25周年記念YEG東京サミットを開催させていただきました。800名以上のご参加をいただき本当にありがとうございました。

また、2月の長崎塾第三塾を担当させていただき、今年度の会長の皆さんと研修をさせていただきました。

最後に、当委員会では25周年記念誌の発行もさせていただいております。3月に皆さんの事務局に発送させていただきます。どうか、楽しみにしててください。

これだけの事業をやったのは、前に並んでいる、熱い熱い委員会メンバーがいてはじめて出来ました。どうか皆さん、うちのメンバーに熱い拍手を送ってください。

そして、最後に、この熱い熱いメンバーを送り出させていただきました単位会の会長様、本当にありがとうございました。

副委員長 中谷 安伸

まずは、この一年間、お世話になりました日本商工会議所事務局の皆様、日本YEG役員、専門委員関係者の皆様に感謝申し上げます。有難う御座いました。

25周年特別委員会という日本YEGの25周年記念を担当する委員会で活動させていただき、非常に熱い素晴らしいメンバーに恵まれ、7月のオーストラリアパースにおけるCACCI（アジア商工会議所連合会）の委員会では、進行役及び綱領朗読、指針唱和などをメンバーがスピーチするなどCACCIに対して日本YEGの存在感を与えることが出来ました。

また、8月の25周年記念、東京サミットでは、委員会メンバー、日本YEG役員、出向者が一丸となり素晴らしい25周年記念式典を終えた事は、誇りに思います。また、長崎会長研修会では、第三塾で日本YEGと国との連携における国家公務委員と19年度会長様と議論させていただき、改めて地域を支える経済人としての責任を感じていただきました。そして、記念誌（CD）も歴史に残せる資料となる内容だと思います。皆様、ご一読の程、宜しくお願い致します。最後に25周年特別委員会のメンバー全員に敬意を表します。

理事 館 邦雄

1. 執行部役員を義理や順番で選ぶと弊害がある事も理解しその対策が必要か。 2. やる気だけの人は役員を受けてはいけない。友情も厳しさが必要か。 3. 会議は形式的で、実際の運営は密室的、体質の変化を求めたい。 4. 差し障りないよう活動を控える、本気でなくなる出向者も多い。なぜか。 5. 人材育成機関的なだけの組織ではもったいない。 6. 役員会や総会などの義務出席者へ旅費日当など金銭支給を考えてはどうか。 7. 国際交流も大き

な柱にあるが、予算無は組織として問題。会員へ甘えか。8. 準備不足の企画が多い、それを「若いから良い」でOKか。

また、組織としては、軽さを装うにも、世間は厳しく、組織としては会則やら規定やら見直しや発行が必要だが、期待した、マニュアルや規定は全てボツ。その理由は一部の理事・役員のみが知っているのか。 と、いろいろと改善点や疑問に多くの役員がなんども注目しそれなりに語り合った一年でした。毎年多くの方がそう納得するのでしょうか、気がつきました。裏返すとそこが、また、良いところなのです。ガチガチでなく、ゆるやかな組織で、飲みながら、思いついたことをまず実行してみる。そんな軽い団体もいいじゃないか、と思いたい私。仕事を忘れ肩の力を抜いて自由に活動できるなんて、素敵だと思います。もちろんその活動に年齢制限など必要なく、若いと思う人は、参加OKでしょう。

お金とお時間が余ってなくても、つまみ参加できる参加しやすさと、辛い義務感のなさが、構成員の参加に対するハードルを下げ組織の活性化につながっていると思います。間違いなく参加してる人はみな良い人であることは確認できますので人間交流の場としてはかなり良いです。良いところを失わないように、今後も多様な可能性を否定しない形で個性ある発展を願います。

理事 青木 繁政

皆様、平成19年度大変お世話になり誠にありがとうございました。茨城県青連出向理事で、25周年特別委員会の青木繁政（下館YEG）です。

皆様のご協力により、役員会、風会議、YEG東京サミット、長崎塾等、とても有意義な活動をさせていただきました。生意気な発言も種々させていただきましたが、『全ては愛する地域のために』茨城8単位会・全国400単位会のために行動してまいりました。これからも、下館と茨城と関東のために頑張ってまいります。

係わっていただいた全ての方々に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

委員 新井 政秀

私の日本YEGに対するイメージは、お金と時間がかかるところであるというものでした。と申しますのも、身近な存在であった平成16年度埼玉県連会長として出向していた故・鈴木多氏が、忙しそうに各地を飛び回っていたのを目の当たりにしていたからです。その日本YEGに自分が出向することになるとは思ってもいませんでした。しかし、全国大会の開催地が近く、会議も東京で開催されることが多いということで、良い機会だと思い出向させていただくことにいたしました。

配属された25周年特別委員会では記念誌と記念グッズ作成を担当しましたが、他にも色々な事業があつてとても大変でした。それでも、皆様に支えられてなんとかやって来られたと思います。この日本YEGでの経験と多くの人々

との出会いは、きっと私の人生に於いて大きな糧になると考えます。一年間大変お世話になりました。そして、お疲れ様でした。

委員 藤原 浩晃

「YEG東京サミット」、最初に聞いた時は「なんじゃ！そりゃ？原田会長も浅井専務もハッキリせんし、準備期間も無いし、出来るんかいな？」あまり乗り気になれず、流れに乗るだけで進めていました。気持ちは第3者でしたね。

私の当初の受け持ちは記念講演。講演者も確定しているので安心・・・でした。

ある日、木下委員長から「式典・総括・閉会式も担当して！」との連絡。「え！7月末にCACCIがあるんですけど？」と思いながらも受けました。そこから、状況が一変！自分の蒔いた種ながら、宮様お成り・来賓者の招へい・講演者の問題・予算不足・・・とてつもない問題が次から次へと吹き出てきました。CACCIの準備をしながらなので結構ハードでしたね。

開催まで1ヶ月を切っても、来賓は決まらない。講演者は決まらない。映像は全然だめ・・・。最終的に決まったのは、来賓者が2日前、講演者は1週間前、映像は前日。シナリオにいたっては毎日変更でなんと当日にも変更有り。私は今までこんなものを作った事も無いのですが・・・。

当日も、スクリーンの位置変え・カミタミカさんのリハに時間がかかり式典のリハもピンスポット・BGMは合わない、映像でも変更あり、ほとんどまともに出来ていません。ノウハウもないし、どうしよう・・・どうなるんだろう？（この時、ペリケさんのスピーチが朝にやっと出てきたので、日本語に訳する為に、加藤さん・箕口さん・事務局の佐々木さん・国際部の丹羽さんが大騒ぎ、ギリギリで間に合う！）

さて、本番です。操作台にスタンバイして、メンバーとインカムで連絡を取りあい、スタート！木下委員長、壇上のガチガチの顔を見た瞬間から嫌な予感。「そのまましゃべってよ、止まらないでよ。」・・・止まっちゃった。けれども、場の雰囲気や和んだからOK！田淵さん、GOOD！山口会頭、持ち時間の3倍ですよ。私、安倍首相の代読、1回しかまともに読んでいません。とりあえず、OKでした。

来賓挨拶、加藤さん・尾山さん・丹羽さん通訳ありがとう！途中で20分以上のオーバーです。どないするん？こうなったら紹介の時の時間調整しかない！塩野さんの貴重な意見で作った緊急プラン①②共に実施！とりあえず、式典は乗りきりました。（執行部の皆様、ごめんなさい。でも、オーバー）

特別講演、渡辺副大臣に無理なお願いをして、分科会の為にアプローチの時間を入れました。英敬さんと青木さんの持ち時間15分を10分に急遽短縮。ごめんなさい。また、壇上で二人が微妙な距離。もっと真ん中に寄って！最

後の締めは、中谷副委員長の閉会宣言。中身省きすぎ！でも、会場爆笑でOK！終わってみれば、時間が巻き戻せるじゃない！ビックリですね。最高でした。今回、裏方に徹してくれた館さん、中下さん、吉山さん、外村さん、小池さん、中村さん（花ありがとう）、平塚さん、清水さん、新井さん、古賀さん、古橋さん、井出さん（カミタミカさんを推薦してくれてありがとう）、事務局の方々（杉浦さんも）、本当にありがとう。

CACCI来賓招へいで鈴木相談役にはお世話を掛けました。国際部にもご苦勞を掛けました。ありがとうございます。カミタミカさん、前日のカラオケから付き合っただけありがとうございます。あなたの唄声で我々は元氣をもらいました。星野副会長、こんなうるさいメンバーと執行部との調整、ありがとうございます。

式典等の最中、何も言わずとも、すぐに対応できるように私の近くでスタンバイしてくれていた仲間達、こんな素晴らしい仲間達と共に25周年記念を祝う時間を共有できた事は一生の思い出となります。また、我々の委員会のみならず、今年度の出向者全員で創りあげた「YEG東京サミット」が参加者全員の心と記憶の中にいつまでも残るのであったと確信しています。つたない進行で皆様にご迷惑をおかけしましたが本当にありがとうございました。

この素晴らしい時を共有できるチャンスを与えてくれた原田会長にエールを送ります。ありがとう！

委員 清水 悟

本年度、木下委員長のもと25周年特別委員会の専門委員として一年間出向させていただきました。日本YEGのことを何も分からないまま東京サミットを始め沢山の事業に参加させていただきましたが、少ない時間の会議では、どうなるのか不安がありました。

しかし、委員会会議を重ねるなかで、バイタリティーある委員会メンバーのモチベーションの高さと行動力に驚きながら、何とか全ての事業を行なうことが出来ました。これからも、日本YEGのメンバーと連携を取りながら、この経験を自単会にフィードバックして行きたいと思えます。

最後になりますが、25周年特別委員会の皆様と共に行なえた事業では、素晴らしい経験をさせていただきましたし、大変勉強になりました。また、日本全国にYEGの仲間が沢山出来たことは、私にとって大きな財産ができたと思えます。

皆様、1年間本当にありがとうございました。



YEG 中長期ビジョン提言会議

委員長

森 徹(岡山 YEG)

委員理事

武田佳彦(留萌 YEG) 山口一男(さいたま YEG) 山内 毅(千葉 YEG)
川島和宏(袋井 YEG) 山田慎二(春日井 YEG) 飯田寛光(八尾 YEG)
清水明人(井原 YEG) 山条真嗣(坂出 YEG)

専門委員

加倉井巧(水戸 YEG) 都筑盛央(さいたま YEG) 大澤寿伸(清水 YEG)
川上貴久(浜松 YEG) 河合秀明(岡崎 YEG) 千石泰範(加西 YEG)
大谷辰夫(松江 YEG) 廣野景治(岡山 YEG) 松田次歳(岡山 YEG)
坪井祥隆(総社 YEG)



委員長
森 徹

我々、委員会の最初の議論は、各地 YEG の仲間は、「日本 YEG を必要としているのか?」「日本 YEG を理解しているのか?」「全国 YEG の連合体として、機能しているのか?」その疑問を持ちながら、我々委員会メンバーは全国 9 ブロック、春の会長会議・秋のブロック大会にお邪魔をさせて頂き、大勢の YEG メンバー、単位会会長様方と色々な意見交換をさせて頂きました。

地域によって、環境や YEG の考え方、親会との付き合い方などが異なる現状がある事を知り、悩みを抱える各地 YEG の仲間に、日本 YEG として何かアドバイスが出来ないであろうかと、委員会内で議論をしてきました。日本 YEG の事を、もっとわかりやすく、理解しやすく、そして各地域の単位 YEG に必要とされなければ、連合体としての意味が無くなるとの結論に達しました。

一人でも多くの、YEG の仲間の声を聞いてみようと考え今回、19 年度出向役員、各単位 YEG 会長様方にアンケートを実施させて頂きました。日本 YEG に対して率直な意見、考え方をお伝え頂いたことは、日本 YEG にとっては大変有意義でした。アンケート内容を、委員会内で精査、収集、集積をし分析をして行くうちに、一つの答えが出てきました。それは「日本 YEG の方向性」です。

青年部が商工会議所の一翼を担う組織となるために、全国組織である本会の方向性を分かりやすく示し目的を明確にする。との思いの下、今回、25 年間改正されることなく交流と連携が主眼となってきた、規約改正に結びつきました。

又、今一度、日本 YEG が足元を見直し、代表者としての認識を持って頂きたく、日本 YEG に対しての「あるべき姿」を提言させて頂きました。全国の YEG メンバーの声を、反映させて頂きました。

最後に、一年間全国を回らせて頂き、数多くの声を頂きました事に感謝申し上げ、ご報告と致します。友情に、感動。有難うございました。

理 事 武田 佳彦

平成 19 年度、北海道ブロック留萌 YEG より中長期ビジョン提言会議に出向いたしました。

近年「YEG の活動意義は?」と疑問を持つようになり、日本 YEG の門をたたいてみました。具体的な活動も理解せず存在意義もわからぬままの出向であり、大げさな表現かもしれませんが未知なる領域へ挑戦(経験)したいという一心でしたが、一年間の活動を通じて日本 YEG のあり方、単位会のあり方を思う存分理解する事ができました。YEG としての自覚をより強固なものにし、日本 YEG で得た知識と経験を単位会へフィードバックし地域活性化への糧としていきたい。未知の経験をさせていただいた日本 YEG の皆様、日商事務局の皆様お世話になりました。

また、様々な苦境を共にした中長期ビジョン提言会議メンバーに感謝申し上げると共に、「提言書」を貰った自分を少し褒めてあげたいと思います。

ありがとうございました!

理 事 山口 一男

初めて日本 YEG に出向させて頂き、YEG 中長期ビジョン提言会議副議長という大役を仰せつかり、強面の森議長のもとこの先どのようになるのかと不安と緊張で一年間が始まりました。

活動内容としては、日本 YEG 規約の改正と全国の単位会メンバーに日本 YEG を知って頂く事が主な役割でしたが、私は東京サミット分科会の担当となり委員会の皆様にご協力いただきました。それで私の役割は終わりかと考えておりましたら、何故か全国会長研修会長崎塾の分科会も担当させて頂き、一年間充実した日本 YEG ライフを送らせて頂きました。

一年間を振り返り感じたことは、時間とお金を使い全国から集まり同じ目的のために議論を繰り返し、懇親会では腹を割って話し合い意気投合して盛り上がる事が、今考えると本当に良い思い出であり感動致しております。

最高の出逢いと感動を戴きました YEG 中長期ビジョン提言会議の皆様と、日本 YEG 出向者の皆様と心より感謝申し上げ活動報告と御礼とさせて頂きます。

一年間本当にありがとうございました。

理事 山内 毅

この一年 YEG 中長期ビジョン提言会議に所属し、森議長の下一年間本当に忙しくも楽しい一年を過ごさせていただきました。

会議内では、グループに分かれ大澤副議長を筆頭に規約改正について議論を進めてきました。

私のこの一年で1番の収穫は、日本YEGがどのように始まり、どんな経緯で現在に至っているのか、また、今後の日本YEGがどんな方向に向かって進めば良いのか、ということについて、第1条の目的、第3条の事業、における規約変更を実行していくにあたり深く考えることができたことです。

今年、この委員会に関わらなければ、長崎での会員総会における規約変更の議案も、私の頭の中を素通りしてしまっただけでしょう。

1文を加える、1語を入れ替える、そんなことにも気を払ったことを思い出すと、この会社の定款ともいえる全国商工会議所青年部連合会規約の目的が25周年を迎える本年に変更になったことは感無量の想いであります。

今年度、私が所属する千葉県連は全国大会を主管させていただきました。これから数年、日本YEGとの関わりがより強くなる、そんな年度にこのような学びの機会をいただけた事に感謝いたします。また、今年できた委員会メンバーとの絆・縁を大切に今後がんばっていきたいと思います。

一年間、本当にありがとうございました。

理事 山田 慎二

初めて日本YEG出向にさせて頂き、今年度愛知県連より原田会長を出している事もあり色々とお世話になりました。委員会は希望で中長期ビジョン提言会議に配属して頂き、熱きYEGメンバーで構成されていて、学ぶことが多い委員会でした。森議長の熱きリーダーシップには男として惚れ惚れする生き方でした。「若きYEGメンバーの為に、日本YEGを変えるんじぁー」を合言葉に活動してきました。

長崎の全国会長研修会時の役員会での委員会の提言書審議差し戻しは、心から悔し涙でいっぱいでした。その場で委員会メンバー山口・飯田の発言。そして北海道連武田君の白票には感動いたしました。その後、会員総会で規約改正が承認された時は、涙が止まりませんでした。一年間活動してきた結果が残せて良かったです。

又25年前に規約を作成したメンバーに春日井YEG先輩が作成したと聞いていたので、「是非改正時は春日井山田が」と活動してきました。本当にこの中長期ビジョンメンバーと出会い一緒にの友人であり大先輩とお会い出来た事に感謝致します。

理事 千石 泰範

今年度、YEG中長期ビジョン提言会議に所属し、一年

間YEGのあり方やYEGの進むべき道に関して非常に良い勉強をさせていただきました。

「日本YEGとは？」との投げかけから始まり、17年度「Renovationへの提言」18年度「地域創造・支援特別委員会報告書」を理解し、委員会で議論を重ねていくうちに、この2つの提言書がなぜ報告書のままで終わっているのか？なぜ一年間熱い想いで創り上げた提言書が有効に利用・実行されていないのか？という想いにかられました。そして熱い議論や検証の結果、ようやく今後のベクトルとなる規約目的・事業の改正に漕ぎつけ、日本YEGのあるべき姿・中長期ビジョンの策定に関わることができました。まだまだ問題は山積していますが、私は今年度でひとつの区切りになったのではないかと感じています。その現場に居合わせたこと、本当に感謝いたします。森議長の「変えにゃいけんのじゃ！」という言葉が今でも頭をよぎります。

私は今年度でYEGを卒業しますが、とても濃い充実したラストイヤーを過ごすことができました。森議長を始めとする熱い想いを持った委員会の仲間そして日本YEGの皆様、本当にありがとうございました。

理事 廣野 景治

まさに「We can do it. 今行動！」全国から集まった熱き同志達と議論を交わし、「YEG」の意義を真剣に考え、そのあるべき姿を確信することができました。本質を捉えたビジョンは歩むべき道を示し、あとはそのビジョンに向かってどのように行動するか。とりまく時代背景をしっかりと認識し、客観的な視点で捉えれば変革しなければならないことが見えてくる。しがらみを捨て、あるべき方向性に向かって勇気を持って歩まなければ何年経っても変わらない。行動こそが求められている。愛着ある日本YEGに初めての出向で多くのことを学ばせていただきました。

猪突猛進の無茶な議長のもと、担当事業では各自の責任感の強さと行動力には感嘆。まさに平成の志士ならぬ爺達の奮闘記でありました。同志達の今後の活躍と、全国の会員が会員であることの誇りを持てる日本YEGの近い将来の姿を祈念して出向者報告とします。ありがとうございました。



記念式典

1. YEG宣言
2. 国家「君が代」
3. 商工会議所青年部の歌「伸びゆく大地」
4. 商工会議所青年部の綱領朗読・指針唱和
5. 主催者挨拶
6. 来賓挨拶
7. 歴代会長紹介
8. 日本YEG25周年の歩み
9. 平成19年度日本YEG役員専門委員紹介
10. 参加YEG紹介
11. 閉会宣言

御来賓一覧

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| ■内閣総理大臣 | 安倍 晋三様 |
| ■内閣官房副長官 | 鈴木 政二様 |
| ■内閣府特命担当大臣 | 渡辺 善美様 |
| ■経済産業省副大臣 | 渡辺 博道様 |
| ■全国商工会青年部連合会会長 | 植村 政人様 |
| ■社団法人日本青年会議所会頭 | 奥原 祥司様 |
| ■全国商工会議所女性会連合会会長 | 齋藤 朝子様 |
| ■アジア商工会議所連合会・アジア大洋州若手企業家委員会委員長 | アンナ・マリーベリケ様 (フィリピン) |
| ■アジア商工会議所連合会・アジア大洋州若手企業家委員会委員 | ムハマド・ソレイマン・ルーベル様 (バングラディシュ) |



特別講演

演題

『地域資源で活性化～若手経済人に期待～』 経済産業省副大臣 渡辺 博道 様 (松戸 YEG OB)



第一分科会

テーマ

“日本YEG直近5代会長と語る「日本YEGを知る・日本YEGを創る」
25年目の決断！「日本YEGを知る・日本YEGを創る」
これからの時代の波に『日本YEG』という船はどう進むのか！”

パネラー 平成14年度会長 大脇 唯真 (鹿児島YEG) 平成17年度会長 荒濱 健太朗 (米子YEG)
平成15年度会長 鈴木 悌介 (小田原箱根YEG) 平成18年度会長 國枝 恭二 (帯広YEG)
平成16年度会長 小園 浩幸 (高石YEG) 平成19年度会長 原田 隆司 (豊田YEG)



第二分科会

テーマ

“Re - Education ～起業教育の可能性” 本物の企業家は
「臨機応変な人間力」と地域や国の発展を考える「豊かな心」をもっている！”

パネラー 官公庁代表：内閣官房参事官補佐 鈴木 英敬 氏
教育界代表：三鷹市教育長 貝ノ瀬 滋 氏
産業界代表：株式会社 幸楽苑 代表取締役 新井田 博 氏
地域代表：有限会社 プロット 代表取締役 後藤 健市 氏

コーディネーター

京都教育大学附属教育実践総合センター 教授 高乗 秀明 氏



第三分科会

テーマ

“地域活性化に、コレは使える！
～有効3ツール紹介～『ヤル気のあるまちに、本気ツールを！』”

地域活性化に取り組んでいる第一線の講師により、事例報告を交えて以下の3ツール紹介を行います。

パネラー * 「構造改革特区」(内閣府 内閣官房 構造改革特区担当室)
* 「地域再生事業」(内閣府 内閣官房 地域再生事業推進室)
* 「チャレンジ・コミュニティ創成プロジェクト」(NPO 法人 ETIC.)

特別講師

地域活性化伝道師 総務省地域再生マネージャー
齊藤 俊幸 氏 (イング総合計画株式会社代表取締役)



記念パーティー



会員総会



YEG東京サミットは、本年度、日本YEGが設立25周年を迎えるに当たり、記念行事として開催。これまでの歴史を回顧・総括するとともに、日本YEGの更なる飛躍の第一歩となるよう実施された。

記念式典では、原田隆司日本YEG平成19年度会長があいさつ。「日本YEGが自民党事業承継問題検討小委員会に提出した意見が反映される形で現在政府の検討が進んでいる。われわれの役割も大きく変わってきている。そこで、本日参加の多くの仲間たちと意見交換を行い、今後の活動に生かせるようにしたい」と述べた。

また、山口日商会頭はお祝いのあいさつの中で、「今後も旺盛な行動力と連帯感を持った積極的な活動をお願いしたい」と述べられ、青年部の更なる飛躍に期待を寄せた。

続いて、「地域資源で活性化～若手経済人に期待」と題し、渡辺博道経済産業副大臣が特別講演を行った。講演の中で、渡辺経産副大臣は、国際競争力の強化、地球環境対策、地域活性化の視点で施策を推進している旨を説明。日本のものづくり技術の強さ、各地の地域資源を活用した取り組み事例などを紹介した。また、ものづくり現場も地域資源だと捉え、「産業観光に活用するなど、それぞれの地域独自の個性を見つけ出してほしい」との考え方を示した。

その後、3グループに分かれ、分科会を実施。第一分科会では、日本YEGの直近5代会長が集結し、「日本YEGを知る・日本YEGを創る」をテーマにパネルディスカッションが行われた。第二分科会では、高乗秀明・京都教育大学教授をコーディネーターに迎え、「Re-Education～起業教育の可能性」をテーマに、パネルディスカッションを実施。地域再生・活性化の鍵となる教育再生の手法の一つとして挙げられる企業教育について、その在り方と方向性を探った。第三分科会では、「地域活性に、コレは使える！一有効3ツール紹介」をテーマに、にぎわいのあるまちづくりに成功している事例などが紹介された。

2日目は、会員総会を開催。平成18年度の事業報告、同収決算報告が議事として諮られ、異議なく承認された。

日本YEG設立25周年記念「YEG東京サミット」

ご参加の御礼

日本YEGは設立当初からの目的である「交流と連携」。25周年を迎えた年に全国各地のYEGメンバーと改めてこの目的が達成できましたことを大変嬉しく思います。ITがどれだけ発達しても、実際に顔を見て話さなければ本物の喜びや悲しみ、汗や涙など心を動かす感動は伝えられない。だから「YEGはリアルでなければならず、リアルでなければYEGは始まらない。」そんな思いを込め、この度の25周年記念YEG東京サミットを開催させて頂きました。

全国各地より東京に御参集頂く為には、お金も時間も相当なご負担をお願いする事になります。御参集頂く皆様にとって、思い出に残り、役に立ち、参加したことで何かに気づいて頂ける有意義なものでなくてはなりません。当日、800名を超える方々にご参加頂き、記念式典・特別講演・各分科会・記念パーティー、そして総括と滞りなく、且つ盛大に開催できましたのも、この会の趣旨を十二分にご理解を頂いた全国の単位YEGの会長様をはじめとする多くのYEGメンバーのご協力の賜物でございます。心より感謝申し上げます。

全国YEGの連合体である日本YEGが25歳という節目を迎え、私達YEGは各地域においても、そして日本という国においても、これからさらに大きな責任と役割を担い、明るく住みよい郷土づくりに貢献しなければなりません。この度の「YEG東京サミット」が、ご参加いただいた皆様、そして全国各地の単位YEGの新たな飛躍へのスタートとなれば幸甚でございます。本当にありがとうございました。

平成19年度日本YEG会長 原田 隆司

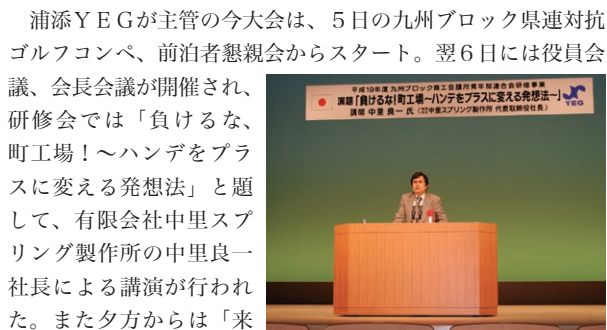
第27回九州ブロック 浦添大会
日 時: 2007年7月5日(木)、6日(金)、7日(土)
開催地: 沖縄県浦添市

熱い思いをてだこの街で
イチャリバチョーデー我らYEG



大会テーマは「熱い思いをてだこの街で～イチャリバチョーデー我らYEG」。「てだこ」とは、沖縄の方言で“太陽の子”を意味する。かつて浦添が琉球の王都として繁栄した時代の英租王を太陽の子「てだこ」と敬称したことに由来している。また“イチャリバチョーデー”とは、沖縄のことわざで“一度出会えば皆兄弟”を意味している。

浦添YEGが主管の今大会は、5日の九州ブロック県連対抗ゴルフコンペ、前泊者懇親会からスタート。翌6日には役員会議、会長会議が開催され、研修会では「負けるな、町工場！～ハンデをプラスに変える発想法」と題して、有限会社中里スプリング製作所の中里良一社長による講演が行われた。また夕方からは「来



たれ！大琉球浪漫！！」をテーマに4つの分科会に分かれ、浦添の歴史劇や三線（さんしん）・三板（さんぱ）の体験講座など琉球芸能・文化を体験。夜には大懇親会が開かれた。7日には記念式典が行われ、レキオファーマ株式会社の奥キヌ子社長が「創業ペンチャーを興して」と題して講演した。

参加者は本大会のさまざまなプログラム・交流を通じて、沖縄の熱い思いをそれぞれの地域に持ち帰っていった。



御礼（ブロック代表理事より）



九州ブロック代表理事
沖縄県 那覇YEG
新垣 淑典

平成19年7月5～7日、沖縄県浦添市で九州ブロック大会浦添大会を開催させていただきました。

九州8県や全国から1000人を超える熱き仲間たちを迎えることができました。この暑い沖縄に“熱い思い”を持ったYEGメンバーが、さまざまな交流を持ち、それぞれの地域へ沖縄の“熱い思い”を持って帰っていただけたものと確信しています。

第27回四国ブロック 小松島大会
日 時: 2007年9月14日(金)、15日(土)
開催地: 徳島県小松島市

郷土愛 YOUはSHOCK!
愛を取り戻せ小松島



四国ブロック大会は、9月14日～15日の日程で徳島県小松島市において開催され「郷土愛 YOUはSHOCK! 愛を取り戻せ小松島」をテーマの下に約500名のメンバーが終結した。

1日目には、四国ブロック役員と日本YEG役員との懇談会が行われ、活発な意見交換が交わされた。2日目は、海上自衛隊小松島航空隊基地において開催され、記念式典・記念講演、そして分科会・懇親会が行われた。「We LOVE My TOWN」と書かれた大会記念ポロシャツが配布され、参加者全員が着用することで一体感を感じることができた。また地元選出の衆議院議員・後藤田正純氏による記念講演では、現在の政治状況を語って頂き興味深い内容であった。また分科会では、海上自衛隊のヘリコプターの試乗体験や基地内の見学、株式会社いわたの横石副社長による講演会、徳島赤十字病院・新谷保実医師によるメタボリックシンドロームの講習など非常にバ



リエティに富んだ内容であり、参加者は銘銘に楽しんでいる模様であった。

総勢28名の小松島YEGが主管であったが、単会の規模を全く感じさせない盛況さがあった。運営メンバーの様々な工夫が随所に見られ、参加者にとっては今後への大きな刺激となった。



御礼（ブロック代表理事より）



四国ブロック代表理事
徳島県 小松島YEG
中川 正道

すばらしい出会い。そして知識と感動を与えて頂いたYEGに感謝申し上げます。ありがとうございました。そしてお世話になりました。

第27回中国ブロック 東広島大会

日時: 2007年9月7日(金)、8日(土)

開催地: 広島県東広島市

無限大の可能性…
～今ここから始まる～



一日目は東広島産業振興会館にて中国ブロックYEG役員会・総会が行われ、次年度の中国ブロックYEG役員及びブロック大会の開催地(徳山)がそれぞれ承認を受けた。日本YEG主催により行われた会長会議では、「教育再生」に関して盛んな意見交換がなされた。

二日目は会場を広島大学に移し、記念式典・記念講演が行われた。記念式典でご挨拶いただいた東広島市長の蔵田氏は、嘗て商工会議所青年部に在籍されておりご自身の活動を振り返ると共に、今後のYEGへの更なる期待を述べられた。記念講演では『マナーの虎』でも有名な実業家 南原竜樹氏が自身の経営哲学を語られ、そのグローバルな生き方には参加者一同大いなる刺激を受けた。続く分科会では、酒都西条にちなんだ酒蔵通り視察や、天文台視察、広島エルピーダメモリ(株)のDRAM最先端工場視察の他、広島県連合同分科会として県内8つのYEGがそれぞれ受け持ちを担当され、マツダ(株)のエンジニアによる水素ロー



タリーエンジンについて等々があり、多岐に亘る10ものプログラムが組まれた。分科会一つ一つの内容の深さもさることながら、地方経済の停滞が危ぶまれる昨今に於いて、あらゆる分野で発展を続ける東広島市の勢いに圧倒された。

ファイナーレとなる大懇親会では、ご当地YEGが育てあげた一大イベント「酒まつり」(国土交通省選 地域いきいき観光まちづくり100)のPRがなされ、正に大会サブテーマ「ここまんぶく東広島大会」は真実であった。

御礼 (ブロック代表理事より)



四国ブロック代表理事
広島県 東広島YEG
杉本 昇

平成18年度は県連出向理事として、平成19年度はブロック代表理事として出向させていただき、本当に多くの情報とご縁を頂くことができました。

また、中国ブロック大会東広島大会におきましては、中国ブロック内外より843名のYEGメンバーにご登録いただきありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。中国ブロックYEGや日本YEGメンバーの友情に触れ、改めて感謝の意を表したいと存じます。『YEG活動を通じて“元気”を持続させ、自らの強い意志と行動力に磨きをかける。』モチベーションの高い方が多く集まる日本YEGでの交流は、多くの刺激を与えてくれました。この経験を活かし、今後の地域での活動に向けて頑張っていきたいと存じます。平成19年度の原田会長をはじめ、全ての出向者の皆様そして事務局の皆様へ感謝を申し上げ、一年間の締め括りの言葉とさせていただきます。

第27回近畿ブロック 亀岡大会

日時: 2007年8月31日(金)、9月1日(土)

開催地: 京都府亀岡市

おいでやす!
ほんものの豊かさ探しに亀岡へ



当大会は日本YEG25周年事業である東京サミットの翌週に開催されたにもかかわらず、近畿ブロックである福井、滋賀、和歌山、大阪、兵庫、奈良、そして京都のYEGメンバーと、全国のYEGメンバーの参加により、1,000人を越える盛大なブロック大会が開催された。

1日目は近畿ブロック役員会・総会が行われ、次年度の役員及びブロック大会の開催地(和歌山県橋本市)がそれぞれ承認を受けた。また、日本YEG主催の会長会議ではディスカッション形式で行われ様々な意見が飛び交った。

2日目は記念式典から始まり、その後の記念講演では、(株)福寿園 代表取締役 福井正憲氏により、「真の豊かさとは」をテーマに語られた。その後の分科会は7つのプログラムから、フォーラム、講演、観光、体験等をYEGメンバーは満喫していた。大懇親会では、ガレリアかめおかコンベンションホールで行われ、レーザービームショーに皆魅入られていた。「おいでやす ほんものの豊かさ探しに亀岡へ」のスローガンを掲げた近畿ブロック大会亀岡大会で、YEGメンバーが心の豊かさを見つけたのではないだろうか。



御礼 (ブロック代表理事より)



近畿ブロック代表理事
京都府 亀岡YEG
大西 聡

平成18年度に続き、今年度はブロック代表理事として出向させていただき、大きく進化を遂げていく日本YEGを実感することが出来、本当に感謝しています。

春の会長会議・秋のブロック大会に参加をさせていただく中で、ブロックの活動や特色を見ることから、自らのブロックの運営に大いに参考になったと思っています。

日本経済は緩やかな回復基調と言われていますが、実際には地域間の格差が大きく、地方はまだ回復に至っていないと感じます。そんな中で、地域で頑張っている全国と同じ青年部の会員の皆さんを見て、やはり私達が地域の青年経済人としての立場や役割を自覚し、地域を支えていかなければならない存在なのだ実感しました。

また、ブロック代表理事として、ブロック大会開催時期決定方法の見直しや年間サイクルの変更に伴う全国大会・全国会長研修会のローテーション(輪番)の見直しを進め、一定の方向が出せたと思っています。平成20年度のブロック代表理事の皆さんにキッチリと引継ぎ、確立していただきたいと思っています。それと、日本YEGの進化のスピードに地域や単位YEGが後れないようにしていくためにも、ブロック代表理事の役割は非常に重要であると思う時、自らの力不足を感じました。

最後になりましたが、近畿ブロックから出向していただいた皆様には、お支えをいただき、ありがとうございました。

第27回東海ブロック **豊川大会**
 日時:2007年10月18日(木)、19日(金)
 開催地:愛知県豊川市

縁“出会いが原点”おいでん豊川



初日の18日は、東海ブロック役員会、臨時総会、会長会議、前泊者懇親会が開催され、2日目の19日には、豊川市文化会館にて記念式典・記念講演、そして分科会・大懇親会が行われた。

記念講演では、野球解説者・タレントのデーブ大久保氏が「私の野球人生」についてをテーマに、面白おかしく講演され、YEGメンバーも楽しい雰囲気です話を聞くことが出来た。

分科会は4つのプログラムが用意され、第1分科会は、豊川閣妙厳寺の副住職である顕道氏による商売繁盛と豊川稲荷信仰についての講演、第2分科会はオーエスジー株式会社代表取締役会長兼CEOである大澤輝秀氏の企業戦略についての講演、第3分科会は日本車輛製造株式会社において鉄道車輛の製造工場見学等、第4分科会は日本の危機管理に関して帝京大学法学部教授の志方俊之氏の講演、など様々な分野の示唆に富んだ内容であった。



御礼 (ブロック代表理事より)



東海ブロック代表理事
 愛知県 豊川YEG
 今泉 教夫

本年度、節目となる第20回を迎えた東海ブロック大会を日本三大稲荷で知られる豊川の地で開催させていただきました。東海ブロック内外より1,378名に及ぶYEGメンバーにご参加いただき誠にありがとうございました。その折には日本YEG出向者の皆様には大変お世話になりました。

地域(国内)を生業のエリアとする中小零細企業としてはいまだに大変厳しい経済環境が続いていますが、全国各地それぞれの地域で郷土愛を持った職業を異にする若者達が、YEGの絆のもと歴史・伝統・文化そして自然を継承し地域の特色を生かした活動を続ける中、「縁“出会いが原点”おいでん豊川」の開催地テーマのもと開催された豊川大会で、何かヒントになることをそれぞれの地域にお持ち帰りいただけたと確信しています。今年度、東海ブロックでは“縁を活かせ”集えYEG『東海から今行動を!』をスローガンに掲げ、愛知・岐阜・三重の三県連約3,000名の会員がYEG活動を通じ連携と交流そして研鑽に努めてまいりました。東京サミット・各地ブロック大会・全国大会・長崎塾など日本YEGの様々な事業にも多くのメンバーが参加しブロックを超えた交流と連携により気づき、そして得るものも多かったと感じます。

一年間共に活動をさせていただきました執行部・プロ代を始め皆様には大変お世話になりました。皆様との出会いに感謝申し上げます今年一年の締めくくりに言葉とさせていただきます。

第27回北陸信越ブロック **七尾大会**

日時:2007年9月28日(金)、29日(土)
 開催地:石川県七尾市

郷土の宝(ほんもの)を未来(とわ)へ遺す心粋
 ~思いやりの風・まごころの土~



初日の28日は午後から、和倉温泉「加賀屋」に於いて、北陸信越ブロック役員会・総会・会長会議が行われた。諸会議終了後は、前泊者交流会が行われた。

翌29日は、分科会からスタート、第1分科会「日本の食文化の世界への発信」、第2分科会「一本杉通りの歴史に触れる」、第3分科会「四季の二橋と、芸術の三美術館めぐり」の3つに分かれ、ご当地の文化や風情に包まれた。

午後からは、和倉温泉観光会館にて記念式典が行われ、続いて「いま変わらなければ5年後は描けない」を全体テーマとし、創業・経営革新挑戦支援フォーラムが開催された。第1部の基調講演では、財団法人新国立劇場運営財団理事長であり、元文部科学大臣の遠山敦子氏が、「人を動かす人材育成」をテーマに講演を行い、第2部も同



じテーマで、コーディネーターに関西大学政策創造学部教授の白石真澄氏、パネリストとして、地元の株式会社加賀屋 代表取締役会長の小田禎彦氏、経済産業省経済産業政策局の鈴木英敬氏、日本YEG原田隆司会長、北陸信越ブロック田村清克会長をむかえ、パネルディスカッションが行われた。その後、和倉温泉「あえの風」にて、大懇親会が行われ、地元の海の幸・山の幸を味わい、壮大なスケールの和太鼓などを楽しみ、温泉にも入るなど、能登の夜を堪能した。参加したメンバーは、被災から復興しつつある「能登」の元気な姿を目の当たりにし、全国でも有数の「おもてなし」も体験し、それぞれにとって有意義なブロック大会となったようだ。

御礼 (ブロック代表理事より)




北陸信越ブロック代表理事
 石川県 小松YEG
 田村 清克

本年度、初めての日本YEG出向であり、また北陸信越ブロック代表理事という大役を仰せつかり、大変意義深い一年を過ごすことが出来ました。

また今年度、北陸信越ブロックでは能登半島地震、中越沖地震という2度の震災に見舞われ、その際に日本YEGメンバーに義援金をお願いしたところ、多大なご協力を頂き誠に感謝いたしております。普段の仕事では一部の限られた人としか交流の無い私にとって、色々な業界、地域の人たちと知り合えたことが、今後のビジネスを運営していくに当り、プラスになるように努めて参りたいと思っております。本年度役員の皆様、また日商事務局の皆様、大変ご苦労様でした。

第27回関東ブロック 平塚大会
 日時: 2007年10月5日(金)、6日(土)
 開催地: 神奈川県平塚市

『しん発見』あらゆる「しん」がここにある！
 ～湘南の風薫る、福幸の街平塚から～



10月5日・6日、『しん発見』あらゆる「しん」がここにある！～湘南の風薫る、福幸の街平塚から～をテーマに、第27回関東ブロック大会平塚大会が神奈川県平塚市で開催された。

5日は、関東ブロック役員会と総会が行われ、次年度の役員とブロック大会の開催地（栃木県真岡市）を決めた。続く会長会議は、普段はプライダルで使用する教会を会場に、ディスカッションが行われ、日本YEGと関東ブロックの各YEGらが活発に意見交換を行った。

6日には、記念式典に続き、記念講演が行われ、株式会社壺番屋（カレーハウスCOCO壺番屋）創業者特別顧問の宗次徳二氏より、「さらなる飛躍、次なるステップへ！！」と題して、事業成功の秘密と困難に対するヒントを戴いた。

その後「あなたの企業はスポーツと心(しん)友になれるか？」「世界シェア100%、世界に誇る日本の技術」など4つの分科会に分かれ、参加者はそれぞれに「しん」発見をしていた。併催の大物産展には、神奈川県の名産品や特産品を集



め、YEGメンバーの他、市民2万人が集まった。

大懇親会では、地元平塚はもとより神奈川県のおいしいものを堪能し、アトラクションなどで会場は大いに盛り上がった。

今年度の関東ブロック大会は、過去最大規模の1,435人の登録、参加があり、盛大な大会となった。

御礼（ブロック代表理事より）



関東ブロック代表理事
 神奈川県 平塚YEG
城所 孝

平成19年関東ブロック平塚大会には、過去最大規模となる1435人の登録・参加を頂きありがとうございました。また私自身も、ブロック代表理事として、日本YEGに出向し、多くの事を学び、多くの友を得ることができた事を、今後の人生に生かして参りたいと思います。

第27回東北ブロック 八戸大会
 日時: 2007年9月21日(金)、22日(土)、23日(日)
 開催地: 青森県八戸市

地域ブランド構築による
 東北再生シナリオ



初日21日の東北ブロック役員会、臨時総会では23年度の全国会長研修会に二つのYEGが立候補したのが報告され今後の選定方法やスケジュールについて議論された。会長会議では各单位会より日本YEGへの様々な要望が出され熱い議論が交わされた。翌22日は記念式典、記念講演、分科会、懇親会が行われた。式典では大会宣言が高らかにされ、



最後に大会旗が八戸YEG松尾会長から来年度開催地、福島県須賀川YEG三本木会長へ手渡された。記念講演では早稲田大学院公共経営研究所代表で元三重県知事の北川正泰氏より「創発のまちづくり」と題し熊本県黒川温泉や北海道夕張市を例にした、まちづくりやブランド構築のあり方について講演された。また新しい価値を見つけて発展させるには事実前提に基づいた物事のあり方を改めな



ばならない事、行政や他人に頼らずに、物事を他人のせいにする他責文化から自責文化へ変えなければならない事を説いていた。懇親会では八戸YEGより地元料理せんべい汁を元にしたせんべい汁ダンスが披露される等大いに盛り上がった。

御礼（ブロック代表理事より）



東北ブロック代表理事
 山形県 坂田YEG
西村 修

平成19年度、東北ブロック代表理事を務めさせていただきました西村修（山形県連酒田YEG）です。ブロック最大の事業である東北ブロック大会 八戸大会には、前年度を20%も上回る1,116名の過去最高のご登録をいただき、盛会に無事に終えることが出来たことを心から感謝申し上げます。またブロック大会開催に併せ、ブロック長年の悲願であった「ブロックOB会」もめでたく発足させていただきました。今後回ってくるブロック内での全国大会、全国会長研修会開催に向けて、OB会としての協力体制も整いつつあります。

また、春の会長会議で東北ブロックの総意として提出させていただきました「地方幹線道路整備に関する提言」の件、日本YEGで入念に揉んで濃い議論を重ねていただき、日本YEGの総意として日商会頭に提言頂きましたことに対して重ねて感謝申し上げます。中央と地方との格差がますます広がる今後、地方発の提言もたいへん多くなってくることと思います。日本YEGとしては常設委員会の中に、本件に対する窓口を常に設けるとともに、スピーディーかつ的確に対処していただきますよう強く要望し、一年間のお礼に代えさせていただきます。

第27回北海道ブロック 滝川大会

日時：2007年10月13(土)、14日(日)

開催地：北海道滝川市

Let's it
美・ひと・まち・みらい



前夜は一部あいにくの雪模様となったが、10月13・14日、北海道ブロック大会滝川大会が「Let's it 美・ひと・まち・みらい？」を大会テーマに無事開催された。



13日午前は理事会が行なわれ、次年度役員及びブロック大会開催地（岩見沢市）が承認された。引き続き行なわれたブロック会長会議では原田会長より25周年事業の説明と御礼があり、日本YEG各委員会からのPR、アンケート、教育再生についてのディスカッションが行なわれた。

午後からの分科会は、地元赤平市でロケット研究会（カムイスペースワーク）を立ち上げた植松努氏の講演会と参加者が作ったロケットの打上げの他、YEGではすっかり馴染みの日本政策投資銀行の藻谷浩介氏による講演があり、地元のデータを他地域と比較しながら時には厳しく、参加者の興味をひく内容となった。さらにフリージャーナリストの財部誠一氏による記念講演は、好景気といわれる反面、人口減少や地域格差といわれる状況化でどうやって活路を見出すか、とある中小企業の実例を示しながらの講演であった。また、大懇親会は会場が

ディスコ・パーティー仕立てとなり、賑やかで楽しい雰囲気の中、メンバーが交流を深めた。

14日は記念式典と北海道知事の高橋はるみ氏による特別講演が行われた。そして滝川名物「松尾ジンギスカン」でのフェアウェルランチに参加者は舌鼓を打ち、最後までおもてなしに徹した滝川YEGメンバーの気持ちの伝わる大会となった。



御礼（ブロック代表理事より）



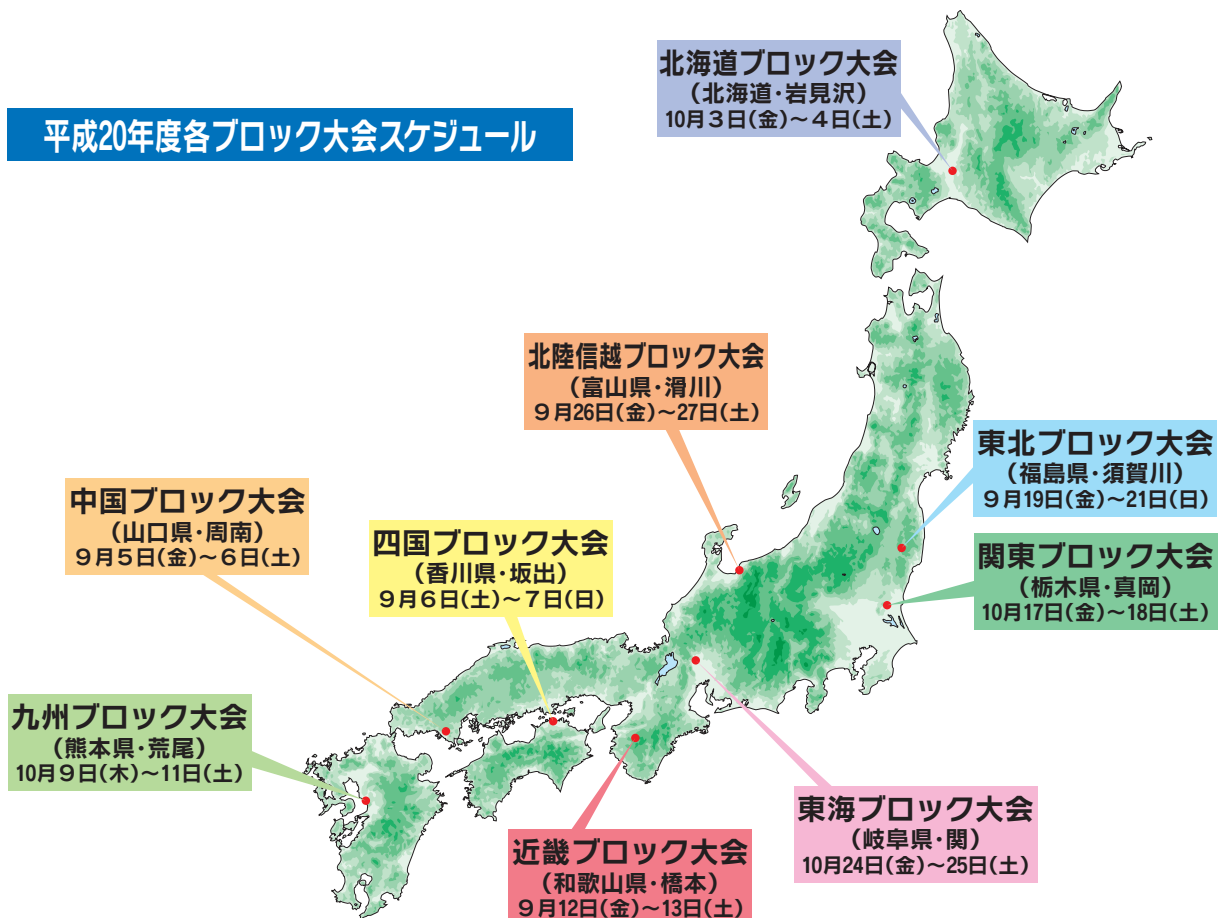
北海道ブロック代表理事
北海道 北見YEG
舩川 誠

平成19年度北海道ブロック代表理事を仰せつかりまして、非常に実りのある貴重な一年を過ごさせていただきました。役員会や各地区のブロック大会に参加させていただき、全国各地の出向者の皆様と活動をとにもすることで、見聞も広まり、得られた知識を地元を持ち帰ることで、会運営に良い影響をもたらすことが出来たのではないかと思います。

また、第20回を迎えた北海道ブロック大会開催の際には、387名にも及ぶ参加登録をいただき誠にありがとうございました。

最後に、大変お世話になった役員・事務局の皆様にご挨拶申し上げます。

平成20年度各ブロック大会スケジュール





日本商工会議所青年部・第27回 全国大会

「We Can Do It.今行動！」全ては愛する地域のために

千葉大会



主・催：日本商工会議所青年部
主・管：千葉県商工会議所青年部連合会
開催地青年部：千葉商工会議所青年部

日 時：2007年11月15～18日
開催地：千葉県

千葉発見伝!

～故きを温ねて新しきを千葉で知る～

商工会議所活動の一翼を担う全国各地の青年経済人が、交流と研鑽を通じて次代への先導者として意識高揚を図り、併せて新しい地域文化の創造と豊かで住みよい地域づくりに向けた役割と責務について意識を深め、以って地域経済社会の将来にわたる健全な成長・発展に寄与することを目的とし、平成19年11月15～18日の4日間、千葉県で「第27回全国大会 千葉大会」を開催。全国から3382人のメンバーが参加した。

四方を海と川に囲まれ、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた千葉は、日本の貝塚の3分の1以上が集積していることからわかるように古代から人々が暮らしており、現在では首都圏の一翼を担い、商工農水製品の供給基地として発展してきた、千葉のよきものを再発見し、活用し、さらに結びつけることによって進化させれば、もっともっといいものが産み出せるのではないかと。

今回の大会コンセプトに掲げた『千葉発見伝～故きを温ねて新しきを千葉で知る～』は、千葉県を舞台とした“南総里見八犬伝”と、「論語」の中で孔子が師となる条件として掲げた、「歴史・思想・古典など昔のことをよく調べ研究し、そこから新しい知識や見解を得る」という意味の“温故知新”とを掛け合わせた造語で、地域の資源を再発見し、新しいものを産み出すことを千葉で知ってもらいたいという気持ちが込められている。また、その新しいものを産み出す過程において『環境』という問題も重要なテーマとして取り上げられている。

11

15
Friday

YEG親睦ボウリング大会

日本YEG諸会議

前泊者交流会

大会初日は、千葉商工会議所の会議室などにおいて各種委員会や役員会が開催され、その後の前泊者交流会では開会宣言の後、歓迎の挨拶（大会会長、千葉県青連会長）、千葉県商工会議所連合会会長、日本YEG会長挨拶の後乾杯を行い、全国会長研修会（長崎YEG）、次年度全国大会（滋賀県連）のPRキャラバンが行われた。歓談中に日本YEGから歴代会長への感謝状の授与が行われ、ボウリング大会の表彰式、サンバ、プロレスのアトラクション等で盛り上がりメンバー同士が懇親を深めた。



11

16
Saturday

第1分科会 街の魅力発見伝!! ～「遊」と「花」の分科会～

会場 マリンスタジアム・千葉市花の美術館・千葉サポートタワー・幕張新都心周辺
マリンスタジアム～花の美術館～ポートタワーのコースと、新都心をガイド付で周遊。ドラマやCMでお馴染みの街並みが印象的であった。



第2分科会 美味発見伝!! ～「匠」と「海」の分科会～

会場 サッポロビール千葉工場・谷津干潟自然観察センター

「ラムサール条約登録湿地」である谷津干潟見学では、自然環境保持の重要性を参加者一同が再認識した。

第3分科会 絶景発見伝!! ～「海」と「空」の分科会～

会場 海ほたる（アクアライン）・竜宮城ホテル三日月

東京湾アクアラインを経由し海ほたるへ。東京湾の絶景を180度のパノラマで展望後、竜宮城にて海の幸に舌鼓を打ち温泉を満喫！。



第4分科会 本能発見伝!!

～「祭」と「食」の分科会～

会場 加曽利貝塚博物館

歴史的価値の高い加曽利貝塚公園にて、縄文時代の生活体験と博物館の見学。石器包丁による魚捌きや火熾しの体験をして縄文スープを作り皆で昼食。一同、童心に帰って一日を楽しんだ。

第5分科会 秘策発見伝!!

～「人」と「遊」の分科会～

会場 幕張メッセ 国際会議場

【テーマ】『千葉ロッテマリーンズを変えた地域融合戦略』

【講師】千葉ロッテマリーンズ 事業部 部長 荒木 重雄 氏

いかにして千葉ロッテマリーンズが観客動員倍増を成し得たのか。その中心人物である荒木氏の、成功談・失敗談を交えた心のこもった内容に参加者も真剣に聴き入り、質疑応答も活発に行われた。



第6分科会 ベイドリーム発見伝!!

～「海」と「空」の分科会～

会場 千葉港・東京湾

高速巡視船『若潮』号により東京湾上より半島千葉県の視察を行った。海上から眺める幕張新都心やディズニーリゾートに参加者も大いに感嘆した。

第7分科会 寛ぎ発見伝!!

～「人」と「遊」の分科会～

会場 幕張メッセ 国際会議場

【テーマ】『テーマパーク事業の経営戦略とヒューマンファクター』

【講師】株式会社オリエンタルランド 代表取締役専務執行役員 経営戦略本部長 砂山 起一 氏

長きに亘って高い人気を誇るディズニーランド。その真髄ともいえる戦略と、それを支える人づくりを学んだ。

第8分科会 まごころ発見伝!!

～「人」と「匠」の分科会～

会場 ディズニーアンバサダーホテル

飛び入り・キャンセル待ちが出る程人気のあった『ディズニーアカデミー』。瀟洒なオフィシャルホテルでの講習で、オリエンタルランドが一流企業であり続ける理由を目の当たりにした。

YEGビジネス交流プラザ・千葉うまいもの物産展

会場 千葉マリンスタジアム特設会場

YEGビジネス交流プラザは、全国のYEG企業及びYEGメンバー内の、ビジネスチャンスを求める全国の様々な業種の企業が出展し、YEG企業会員間のビジネスの融合、自社の製品・技術のPR、顧客の拡大、販売方法・販売チャンネルの開拓発見、情報収集、マーケティング活動、企業間のビジネスネットワークの構築などを目的として開催された。また併設の千葉うまいもの物産展では、物産（お土産品）販売や飲食ブースが並び、16時から特設ステージで、神田外語大学フラメンコ舞踊部「LAS ☆ BAKANDAS」、千葉を代表する癒し系ロックバンド「THE BENDS」、そしてカミタミカさんのステージで大いに盛り上がり、会場がすべて埋まるほどの大盛況となった。



OB サロン

会場 ニューオータニ幕張 シェルルーム

会場は終始和やかな時間が流れ、YEG同窓会の雰囲気であった。またOBの方々から今後のOBサロンの在り方、運営に関しても参考となる意見が出された。

翔生塾 ～日本経済再生は地域活性化から～YEGの方向性は～

会場 幕張メッセ 国際会議場

【講師】 千葉商科大学学長 島田晴雄氏

経済のグローバル化や人口減少・高齢化がもたらす課題などについて島田氏ならではの見解そして提案に一同多めに引きつけられた。引き続き行われた原田会長、山内大会会長との対談では、島田学長が『日本経済再生は地域活性化から～YEGの方向性は』と云うテーマに則し、YEGへの熱い期待を述べると、メンバーはそれぞれに気を引き締めていた。



ビジネスプランコンテスト表彰式

会場 幕張メッセ 国際会議場

「第5回YEGビジネスプランコンテスト」の発表と表彰式が行われ、グランプリには燃料高騰や環境問題に配慮した白山YEG(石川県) 所属の細川悟君による「LPG(ハイブリッド)車普及」を選出。準グランプリは「旅館向けASPシステム事業 'web 女将」 高山 YEG(岐阜県) 千垣内順君、同じく準グランプリに「気づきプログラム 'たまごプログラム」 浜松 YEG(静岡県) 水野久美子君、日本 YEG 研修委員会特別賞に「バーチャルペット葬儀事業計画」 高山 YEG(岐阜県) 中島太君、功労賞に高山 YEG(岐阜県) を選出した。



第50回通常会員総会

会場 幕張メッセ国際会議場

第50回通常会員総会では、日本YEG平成20年度役員の仕事並びに監事候補者承認に続き、工藤哲弘 会長予定者(大分県連大分YEG)から副会長・専務理事候補者が発表されそれぞれ承認を受けるとともに、次年度の各ブロック代表理事・各委員長を報告した。



日本YEG設立25周年歴代功労者感謝状贈呈式

会場 幕張メッセ国際会議場

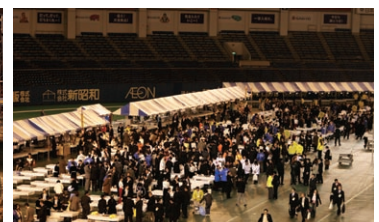
日本YEG設立25年目を記念して、日本YEG会長として全国の商工会議所青年部活動の活性化のためにご尽力され、日本YEGならびに各地青年部の発展に多大なるご貢献をされた、大脇唯真 平成14年度会長、鈴木柊介 平成15年度会長、小園浩幸 平成16年度会長、荒濱健太朗 平成17年度会長、国枝恭二 平成15年度会長の、5名の方々に原田会長より感謝状を贈呈した。



大懇親会

会場 千葉マリスタジアム

大懇親会は、原田会長・工藤副会長バッテリー、バッテリーボックスには山内大会会長が立ち始球式によって開会した。その後もプロレスやサンバと云ったアトラクションで会場は多めに盛り上がり、「第25回全国会長研修会・長崎塾」の主管である長崎YEGから開催PRが行われたほか、次年度(11月6～9日)の全国大会開催地である滋賀県青連のメンバーからも開催のPRが行われ、フィナーレの大花火によって幕を閉じた。



11
17
Sunday

記念式典

会場 幕張メッセ イベントホール

同大会の山内毅会長(千葉YEG)による青年部旗の入場からスタート。日本商工会議所の岡村正会頭、日本YEGの原田会長、千葉県商工会議所連合会の千葉滋胤会長らのあいさつに続いて、関東経済産業局の藤田昌宏局長、千葉県の堂本暁子知事、千葉市の鶴岡啓一市長から祝辞を頂いた。



記念講演 ～環境の世紀 日本の世紀～

会場 幕張メッセ イベントホール

【講師】 衆議院議員 元環境大臣 小池 百合子氏

「クール・ビズ、や「ウォーム・ビズ」の提唱者としても知られる同氏の話の聴き、YEGメンバーらはあらためて環境問題を考え、自分たちには何ができるのか見直す機会となった。



第 27 回全国大会千葉大会 御礼

全国大会千葉大会全ての日程を無事終了できました事、厚く御礼申し上げます。

私たちは、千葉県連内で数年前から準備を進めて参りました。平成18年には、全国大会のための組織を立ち上げ、実行委員会が始動しました。今年度に入ってからは、各部会毎に活発な活動を繰り広げ、大会に臨みました。今大会は千葉県16単会の協力があつて成功に結びつきました。千葉県内各単会には、部会に所属してもらいそれぞれに担当の準備を進めてもらいました。通常、県連は連合会として、単会同士横のつながりはあるものの深い結びつきとまではいかないのが現状であると思います。

そんな中、この全国大会は大会準備を通じ単会同士の結びつきをより強固なものにしてくれました。加えて、リーダーの育成・単会をこえた部会運営向上等に寄与したことはいうまでもありません。

大会副会長・実行委員長・副実行委員長・部会長・大会顧問・各単会会長……、それぞれのポジションで、リーダーシップ・協調性を学び、そして発揮し、結果、15日から18日までの日程で、同日・同時進行の行事が多々あったにも関わらず各持ち場で粛々とプログラムを消化・遂行することができました。

日本YEGの全国大会は会員間の交流と連携の場として毎年開催されていますが、主管県連には前述のとおり貴重な学びの場を与えていただけるものであります。千葉県連はこの経験を大いに活用し、これからの県連活動・単会活動、また各々のビジネスに活かしてこそ、この全国大会に参画した意義があると考えます。

今後、自分自身も精進していく所存であり、この大会に関わったすべての皆様の成功を期待します。

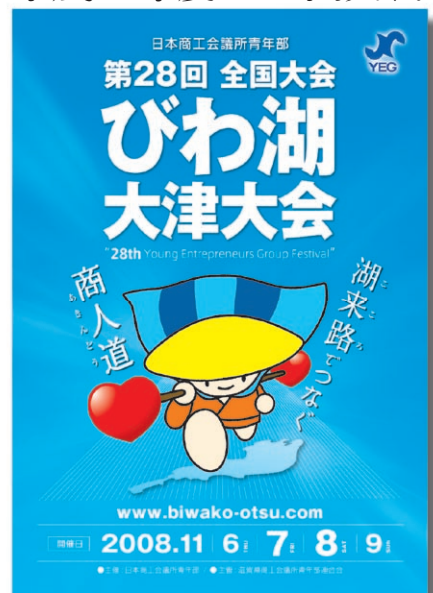
全国大会が今後も続くことにより、千葉のような経験をもつ県

連が毎年毎年増えていくことで日本YEGは全国の連合会組織として基盤がより強固になると確信致します。

結びになりますが、この大会の成功は青年部の力だけでは成し遂げられませんでした。関係各署・諸団体・OBの皆様等の多大なるご協力に深く御礼を申し上げるとともにこの大会に関わっていただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げご挨拶とさせていただきます。

日本商工会議所青年部 第27回全国大会千葉大会
大会会長 山内 毅

平成20年度 全国大会



第5回 ビジネスプランコンテスト

日本YEGは、第27回全国大会千葉大会において、「第5回ビジネスプランコンテスト」のグランプリなどの発表と表彰式を行った。今回は35プランの応募があった。1次審査を通過した20人と、1次審査未通過の有志8人が9月、静岡県浜松市カリアックで行われた経営革新塾パワーアップ研修会を受講し、ビジネスの最前線をいく専門家によるコンサルティングなどを受けた。そこで選考された8人が最終審査会でプレゼンテーションを行い、グランプリ、準グランプリなどを決定した。

受賞者コメント



LPG ハイブリッド車普及

白山YEG (石川県)
細川 悟

1. 応募したきっかけ、理由

昨年、全国大会においてビジネスプランコンテストの、授賞式やプレゼンテーションを観て、自分も来年は、ぜひエントリーしてみたいと共感し、自社のビジネスプランが、独り善がりではなく、ビジネスとして、通用するの客観的に、みていただきたかった。また、エントリーするのであれば、県連・単会の活性化や自社のモチベーションアップのためにも、なんとか、受賞したいというきもちで今回エントリーさせて頂きました。

2. 苦労したことなど、体験談

一次審査は、書類審査で何とか通過し、カリアックに集まったメンバー達、そして研修委員会メンバーや講師に恵まれて全然進まなかった説明資料の不備などが、明確化され、ほとんど寝ずの3日間のブラッシング研修の中で、パワーポイントを使ってプレゼンができるようになるまで出来たのは、皆様のおかげと感謝しております。そして、最終審査を迎え、はらはらどきどきの緊張の中無我夢中で、発表させて頂いたことは、一生に残る思い出になりました。

3. 受賞した感想

全国大会において『グランプリ』を頂き、県連・単会・自社に持ち帰れたことで、今までの自分を育てて頂いた恩返しが出来たような気がします。また、単なるコンテスト受賞と捕らえるのではなく、このビジネスプランが本当に市場に普及し、ユーザーの皆様喜んで頂けるようになる事が、受賞させて頂いたものの使命と自覚しさらなる、努力をかさねていく所存です。新聞・NHKの全国放送までして頂き、問い合わせが殺到し、受注まで繋がったのは、日本商工会議所ならびに、日本YEGの日々の努力の賜物ではないかと感謝しております。最後に、この『ビジネスプランコンテスト』に出会えて良かったことをメンバー皆様にお伝えし、次年度以降、数多くのメンバーが、一押しビジネスプランを持ち寄り、日本YEGから全国に通用するビジネスがぞくぞくと発信されていくことを願います。本当にありがとうございました。



旅館向けASPシステム事業 “web女将”

高山YEG (岐阜県)
千垣内 順

1. 応募したきっかけ、理由

応募のきっかけは、地域格差が顕著に出始めた3年ぐらいい前より、高山市においても経済状況が益々不透明になってきており、当社においても、立ち止まっていたは企業の存続や発展は無いと考え、新しいビジネスプランの構築を進めていたところでありました。そのような中で「ビジネスプランコンテスト」の存在を知り、是非とも応募したいと考えました。

2. 苦労したことなど、体験談

振り返ってみますと、「カリアックでの集中研修」では、自分のビジネスプランの不十分なところなどを明確化することができ、不眠不休の中での作業は大変ではありましたが充実した3日間を過ごすことができましたと思います。

3. 受賞した感想

この度、日本YEGビジネスプランコンテストにおいて、「準グランプリ」という栄えある賞をいただき誠に有難うございました。これも、清澤先生はじめ日本YEG研修委員会の皆様アドバイスやお力添えのおかげと感謝しております。

「準グランプリ」をいただいたことで、当社社員のモチベーションも上がり順調に開発も進んでおりますので、来年2月には、このビジネスプランを市場に投入し、当社の業務のひとつの柱にすべく努力重ねて行きたいと心を新たにしております。

また、来年度の「ビジネスプランコンテスト」には、より多くの方が参画され、全国に通用するビジネスプランが日本YEGより数多く発信されて行くことを期待しております。有難うございました。



気づきプログラム 『たまごプログラム』

浜松 YEG (静岡県)
水野久美子

1. 応募したきっかけ、理由

日本 YEG のスタッフからは非、応募してくださいとお誘いを受けたからです。

2. 苦労したことなど、体験談

何といっても二泊三日の合宿が印象的です。私の地元浜松カリアックでの開催ということで、当日、他、研修の準備や接待役があり、自分の時間がなかなかとれない中でパワーポイント作成でしたが、一緒に参加していらっしやった仲間やスタッフの方々からの応援や良い刺激をいただいたお陰で最後まで諦めずに想いや計画をプレゼンに載せていけた「プロセス」が大きな収穫だと考えています。

3. 受賞した感想

当日、お手伝いで司会をしていたので、まさか入賞しているとは考えもせずに言葉に表すことが出来ない位の感動があったこと、既に合宿後にもブラッシュアップを図って現場を持つようになっていたので、より背中を押していただけたようで嬉しかったです。これからも継続して頑張っていきます。



バーチャルペット葬儀事業計画

高山 YEG (岐阜県)
中島 太

1. 応募したきっかけ、理由

応募したきっかけは、日本 YEG 出向者からの呼びかけによりビジネスプランコンテスト (BPC) を知りました。新事業の企画を考える中今回の BPC を知り、この機会に自分の考えるビジネスモデルを作り上げたいと思い応募いたしました。

2. 苦労したことなど、体験談

今回の BPC では、自分のビジネスモデルを目に見える形で表す事と、それを相手に理解して頂けるようにプレゼンをしなければいけないこの2点です。頭では分かっている形にできない！形ができて上手く喋れない！カリアックではすごく苦労致しました。

3. 受賞した感想

当日、お手伝いで司会をしていたので、まさか入賞しているとは考えもせずに言葉に表すことが出来ない位の感動があったこと、既に合宿後にもブラッシュアップを図って現場を持つようになっていたので、より背中を押していただけたようで嬉しかったです。これからも継続して頑張っていきます。



高山 YEG (岐阜県)

〔単位 YEG から多くの応募をした功績〕
高山商工会議所青年部 会長 都竹 太志

先般行われた日本 YEG 全国大会千葉大会「ビジネスプランコンテスト」表彰式の席上、高山 YEG が名誉ある賞をいただきました事、心より御礼申し上げます。高山 YEG は今年度設

立 20 周年を迎える事が出来ました。設立時より「会の為の会ではなく、自企業の為の会である」をモットーに、日々自己研鑽に努めており、その一環として、今回 BPC に 9 名応募させて頂き、そのうち 2 名が入賞させて頂くことが出来ました。これに驕る事なく、更に精進して参りたいと思います。

ビジネスプランコンテスト開催御礼



るプレゼンテーションを試み、参加者を募りました。

この事業はコンテスト形式をとっていますが全国の YEG メンバーよりビジネスプランを募集し、その起業化・事業化に役立つ研修を行うことが目的です。参加者は応募からはじまり、集合研修、一次審査二次審査、そして表彰までの一連の過程を通し、様々な角度から自らの経営能力、企業化のためのプレゼンテーション等資質向上を図る事ができます。

特に集合研修では、プレゼンテーションソフト「power point」の研修とこのソフトを使用し自らのビジネスプランに磨きをかけてもらいました。参加者は講師の先生、参加者、

ビジネスプランコンテストも第 5 回を迎えました。今年度は各ブロック春の会長会議において第 4 回のビジネスプランコンテストのダイジェスト映像によ



インストラクター (研修委員会メンバー) の前で公開プレゼンテーションを実施し講師より改善点が指摘されます。参加者は担当インストラクターと相談しプレゼン資料を改訂・プレゼンの練習を経て再度公開プレゼンに臨みます。このサイクルをエンドレスで 2 晩不眠不休で繰り返すのです。まさしく極限への挑戦です。その結果パソコンさえ満足に使えない人も、人まで話すのが苦手な人も劇的に変貌を遂げました。おそらくこの極限状態のなかで参加者は勿論のこと研修委員会メンバーも自分自身や仕事、人生と真剣に向き合っていたのではないのでしょうか。集合研修という極限を陵駕してみなさんそれぞれに何かを掴まれたことと思います。

審査によって以下に述べるように各賞が決定しました。本当におめでとうございます。

受賞された方も賞を逃した人もこれからのスタートです。将来日本を席卷するビジネスプランがこの中から誕生することを心より祈念申し上げ総括とさせていただきます。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

日本商工会議所青年部 平成 19 年度研修委員会
委員長 菊地 亮

第25回 全国会長研修会

長崎塾

集え、平成の志士たちよ。
～YEG魂の連鎖～

灯
をともせ!

開催期間：平成20年2月8日（金）～2月9日（土）

主催 日本商工会議所青年部
主管 長崎商工会議所青年部

全国会長研修会は各地商工会議所青年部の指導的役割を担う会長、次期会長予定者、担当事務局および次代の単会を担う熱意ある会員を対象に、地域経済を担うリーダーとしての資質の向上と意識の高揚を図るとともに、青年部の当面する課題等について意見交換を行い、青年部組織の活性化と一層の充実に資する目的で開催している。



長崎物産市 11:00～16:00
長崎ブリックホール・屋外特設会場&2階ホワイエ

長崎物産市 8:00～16:00
長崎ブリックホール・屋外特設会場&2階ホワイエ

開会式 13:00～14:00
長崎ブリックホール2階・大ホール

長崎塾総括「船中八策」 9:30～10:45
長崎ブリックホール・屋外特設会場&2階ホワイエ

長崎塾オリエンテーション 14:00～14:45
長崎ブリックホール2階・大ホール

YEG大賞発表・表彰式 10:40～11:10
長崎ブリックホール・屋外特設会場&2階ホワイエ

グループ別研修会 15:00～18:00
長崎ブリックホール国際会議場ほか

閉会式(次年度PR) 13:00～13:30
長崎ブリックホール大ホール

OB交流サロン 14:00～18:00
長崎ブリックホール1階・レストラン『ラ・ガポール・パレ』

日本YEG諸会議 14:00～17:00
長崎新聞文化ホールアストピアほか

大懇親会 19:00～21:00
ホテルニュー長崎ほか

エクスカーション 14:00～17:00
長崎市、佐世保市



大会初日は、長崎空港に程近い大村商工会議所の会議室において日本YEGの各種委員会や役員会が開かれた。夜には前泊者交流会が行われ、メンバー同士懇親を深めた。

2日目は場所を長崎市に移し、日本YEGの諸会議やグループ別研修会、県内の地場産品などが並ぶ長崎物産市が開催された。

このうちグループ別研修会は、今回からメンバー同士の議論と交流をより深めてもらおうと、対象者別に5つのグループに分かれて開催された。各グループのテーマは、第いち壱塾が「YEGの未来に灯をともしせ！」で次年度各地YEGの会長に就任を予定しているメンバーを対象に、第に弐塾が「日本YEG連携の魂に灯をともしせ！」で本年度および次年度の道府県青連会長（予定者）と日本YEGへの出向（予定）者を対象、第参塾が「経済再生の灯をともしせ！」で本年度の各地YEG会長を対象、第四塾が「事務局魂に灯をともしせ！」で各地商工会議所のYEG担当事務局職員を対象、そして第ご伍塾が「単位YEG活性化の魂に灯をともしせ！」でYEGの専務理事を務めるなど次代を担う熱意ある会員を対象にそれぞれ開催された。続く大懇親会も研修会と同じグループ別に行われ、赤いランタン（中国ちょう提ちん灯）が揺らめく夜の長崎のまちでメンバー同士熱く語り合った。

最終日は、長崎塾の総括と第7回YEG大賞表彰式、会員総会が行われ、3日間の日程を終了した。

第25回会長研修会 開催御礼

全国各地のYEGより多数の皆様が長崎の地へおこしいただきましたことに、長崎YEGならびに長崎県商工会議所青年部連合会メンバー一同、深く感謝申し上げます。

また、ご多用中にも関わらずご臨席賜りました来賓の皆様ならびにOB会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、日本経済は緩やかながら確実に回復基調にあるといわれ続けております。しかしながらその景況感も地域格差が顕著であり、いまだ地方には景気回復の実感があまりないのが現状ではないでしょうか。また相次いで発覚する偽装問題に代表されますように企業のモラルも厳しく問われております。商工会議所活動の一翼を担う我々YEGが愛する地域のために今何をすべきなのか、本研修会ではそれぞれの立場、目的に合わせて分科会形式の研修を企画いたしました。

「灯をともしせ！集え、平成の志士たちよ。～YEG魂の連鎖～」をスローガンに、リーダーとしての資質向上、地域経済への貢献、行政等への提言などの具体的なテーマに沿って、同じ目標に向かう全国各地の仲間と大いに語り合い、連携の和を深めていただけた事かと存じます。

かつて近代日本の礎を築いた先賢達がこの長崎に集い、そして長崎で学び、それを地域へ持ち帰り、日本の発展に寄与したように、地域のリーダーたる皆様がこの「長崎塾」で学び得た事を、それをそれぞれの地域の活性化に役立てていただければ幸いに存じます。大会期間中に開催されました「長崎ランタンフェスティバル」ランタンの灯りのように、皆様の心に何か灯をともしることができればと願っております。

最後になりますが、本大会開催にあたり、ご支援ご協力いた

だきました関係各位に深く感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

日本商工会議所青年部 第25回全国会長研修会
大会会長 鈴木 茂之

平成20年度 全国会長研修会



平成19年度 第7回

Y E G 大賞



YEG大賞とは、各地のYEGがそれぞれの地域のために取り組んでいる事業を全国的に募集し、その中から特に優れた事業を顕彰するというもの。日本YEGが「各YEG活動への支援の強化」の一環として、全国の事業を集約し、データベース化した情報を共有することで、地域活性化の一助とするとともに、素晴らしい事業を発掘することを目的に毎年実施している。

今回は、昨年5月12日～10月31日の受付期間に全国400単会から83事業の応募があった。これを11月16日に行われた1次審査で10事業に絞り、続いて12月1日～25日の期間に実施された全国400YEGの会長によるオンライン投票（2次審査）で3事業に絞り込まれた。そして1月22日の最終審査で、それぞれの事業を実施するYEG代表者によるプレゼンテーションが行われ、各賞が決定。2月9日の第25回全国会長研修会会長崎塾において表彰式が行われた。

受賞者コメント

YEG大賞（日商会頭賞）

「ジュニア・エコノミー・カレッジ」

東北ブロック／福島県連／会津若松YEG
（会津喜多方YEG・須坂YEG・岡崎YEGとの連携事業）

会津若松YEG

「多くの起業教育は職場体験や講演などの模擬体験であり、職業観の育成が中心です。でも本来は起業家をロールモデルとして、そのコンピテンシー（仕事のできる人の行動特性）や考えを学ぶことが大切なのだと思います。起業・事業を通じての達成感や悩み、不安などを実際に子供たちにも、できる限り現実に近い形で疑似体験してもらっています。例えば、模擬銀行への借り入れ申し込み、借入金、借入利息、売り上げの10%を税金として収める（実際は自治体などへの寄付）などです。これらを通して、子供たちは自分自身が何をやりたいのか考え、悩み、友人同士で話し合い、意見の相違が発生することでかっ葛とう藤し、商品の完売や役員報酬といった達成感や喜びを得る。自らが課題を発見し、解決する能力を育成し、社会とのかかわりを学んでいくことを最大のテーマに実施しています」

敢闘賞

「平成19年度浜松市政令指定都市移行記念事業『集え！企業家の卵たちよ！』」

関東ブロック／静岡県連／浜松YEG

浜松YEG

「メインテーマに『あなたのアイデアで浜松らしさを創造しよう 創ろう！ 育てよう！ ものづくりの精神を浜松から！』を掲げました。既成の概念にとらわれないさまざまな分野での新しいアイデアの創出が、浜松の『ものづくり精神』の基本であると考えているからです。将来を担う若者たちが考える『新しい浜松らしさ』が入ったアイデアを募集し、コンテストを通じてその実現の可能性を広げていってほしいです」

敢闘賞

「男木島（おぎしま）地域活性化を目指している団体への支援事業」

四国ブロック／香川県連／高松YEG

高松YEG

男木島地域の活性化を目指している団体に協力・支援することで、県都である高松市の観光資源を創出し、高齢化地域の活性化と自立を図っていききたいと思います。

その他の一次審査通過事業

■弘前YEG 中心繁華街活性化プロジェクト『鍛冶町ほこ天FOOD!!』 ■相模原YEG 地域文化創造事業「てるてる姫」 ■福井YEG アントレ・キッズ in エンゼルランドふくい ■彦根YEG 佐和山一夜城復元プロジェクト ■米子YEG しょうから本舗の設立 ■八女YEG 八女の祭り「あかりとちやっぽんぼん」提灯まつり ■荊田YEG 産業観光都市宣言！KANDA名産プロデュースプロジェクト！